

II-2. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業における主な5プログラムに関する成果報告

「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業では、主な5つの教育研究プログラムについて共同開発・実施、普及・定着化を図った。以下、これら5つのプログラムにおける教育研究活動の成果について報告する。

1. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム

本プログラムでは、医療人としての高い倫理観と使命感、卓越した研究能力を修得し、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師として、先進医療や高度学術研究・高度医療薬学研究、トランスレーショナルリサーチやレギュラトリーサイエンス、臨床疫学研究、さらには医療行政・薬事行政を指導的な立場で担うことができる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。このプログラムは、本事業の5つの主プログラムの中で、他の4プログラムを開発・実施するための基軸となるものである。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、本事業はその発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」については、国公立大学の優れた物的、人的リソースを十分に活用することによって実施する。本プログラムとして、学部については、長期課題研究において最先端の研究に主導的に取り組むことにより、研究倫理に基づいた自己規制の中で優れた研究能力の修得を図る高度課題解決型教育プログラムや、高度長期課題研究プログラムが推進すべきプログラムとして挙げられる。大学院博士課程については、高い倫理観と卓越した研究能力を身に付け、独創的な研究により世界をリードできる人材を養成する高度大学院教育研究プログラム、さらにはスーパー薬学博士養成アドバンストプログラムが挙げられる。一方で、学部あるいは大学院の在学中に、行政機関や関連企業の第一線において実践的で高度なマネジメント能力とリーダーシップ、さらには汎用力の修得を図るアドバンストインターンシッププログラムも有用である。

以下、参画大学の事業成果報告をもとに、年度毎に、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては、別添の資料が提出されているが、紙面の関係上本報告書には掲載していない。これらについては、本事業のホームページあるいは各実施大学のホームページ等で公開しているので、参照いただきたい。

【2016年（平成28年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<東北大学>

○ 次世代型専門薬剤師の育成事業

・がん化学療法薬学分野と生活習慣病治療薬学分野において高度な先進的薬学研究力と薬剤師専門性を育成する教育プログラムの開発と人材育成の中で、学部生が受講できる部分について実施した。

○ スーパージェネラリスト・ファーマシストの養成事業

・東北大学の教育資源を活用した時代の求めるスーパージェネラリスト・ファーマシストの養成教育プログラムを構築した中で、学部生が受講できる部分について実施した。

○ スーパージェネラリスト・ファーマシストPLUSの養成事業

・東北大学の教育資源を活用して培った研究力を革新的医薬品評価開発支援や地域包括ケア等、急性期医療から高齢社会での地域医療で発揮する先駆的な薬剤師スーパージェネラリスト・ファーマシスト・プラスを育成する教育プログラムの構築と人材育成の中で、学部生が受講できる部分実施した。

<金沢大学>

○ 附属病院との連携

- ・1年次生を対象として、附属病院で早期体験学習を実施した。
- ・3年次生及び4年次生を対象として、実務実習事前学習において病院薬剤部長、副部長及び薬剤師による講義を実施した。
- ・4年次生を対象として、実務実習事前学習において附属病院の医師による診断・治療・処方についての講義を開催した。
- ・6年次生を対象として、「病院実習II」（2単位、3ヶ月）の選択科目を設けて応用実務実習を実施した。

○ 地域薬局との連携

- ・1年次生を対象として、NPOアカンサス薬局で早期体験学習を実施した。
- ・3年次生を対象として、薬局薬剤師による講義を実施した。
- ・5年次生を対象として、NPOアカンサス薬局を利用した薬局実習を実施した。
- ・英語による臨床薬学教育の教材作成を行った。

<京都大学>

○ 社会人の博士課程への受入実施

・所定の要件を満たした場合、病院、官公庁、企業等に在職中の者についても博士課程の学生として受け入れを行っている。

○ 多職種連携プログラム

・ 1年次生を対象として、夏季休暇中に多職種連携医療体験実習を実施し、その後ワークショップを行いチーム医療の重要性を学習した。

◇ 参加人数：学部36名、医学部医学科113名、医学部人間健康科学科7名

・ 4年次生を対象として、後期集中講義として「医療安全学」を開講し、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行った。

◇ 参加人数：薬学部31名、医学部112名

○ 医療実務事前学習におけるトランスレーショナルリサーチ教育

・ 4年次生を対象として、事前学習内で附属病院薬剤部教員によるトランスレーショナルリサーチに関する講義後、薬剤師が行うべき研究の立案についてSDGで討議した。

○ 霞が関セミナー

・ 学部生、大学院生を対象として、厚生労働省、PMDA、特許庁より現役の若手京大OBを招き講演を行い、学生の進路選択の一助とした。

<岡山大学>

○ 薬学セミナーにおけるキャリアパス関係の教育（*）

・ 学部の1、2年次生を主な対象として、学外講師による薬学の進路に関する講演により、薬学出身者

の多様な進路の実際を紹介した。

○ 学外合宿研修

・ 研究機関（理研神戸）及び製薬会社（アルフレッサファーマ、東和薬品、武田薬品工業京都薬用植物園）の見学ならびに教員による学生との討論を実施した。

・ 3年次生を主な対象として、研究機関及び製薬会社の見学と本学薬学系教員による学生との合宿による討論から構成した。

◇ 参加人数：学生約40名、教員4名

<九州大学>

○ 創薬・臨床コラボ実習

・ 博士課程の教育研究プログラムとして、臨床試験、臨床研究に対する知識・技能、がん専門薬剤師に必要な知識・技能の習得を目的に開講した。

・ 製薬企業及び医療現場との産学官共同研究に参加することにより臨床薬学の視点から創薬科学に着目した研究理論、技術及び発想を習得する。

・ 創薬の流れの中での自らの研究の位置づけを理解し総合学問としての創薬プロセスについて理解を深め新たな研究領域で研究を実践できる能力を培う。

◇ 実施学年：博士課程1～4年次

○ 瘍治療学実習

・ 博士課程の教育研究プログラムとして、臨床試験、臨床研究に対する知識・技能、がん専門薬剤師に必要な知識・技能の習得を目的に開講した。

- ・がん医療に特化した実習を行うことにより、がんチーム医療に積極的に貢献できる「がん専門薬剤師」、「がん指導薬剤師」に必要な知識・技能を習得する。

◇ 実施学年：博士課程1～3年次

2) その他（大学としての取組等）

<東北大学>

- 東北がんプロフェッショナル養成プラン（H19-H23）
 - ・がん対策の一層の充実を図るため、専門資格取得のために必要な学識・技術を習得させ、学際的かつ総合的な臨床研究推進能力を有したがん専門医療者の養成を図る。
- 次世代型専門薬剤師の育成事業（H20-H24）
 - ・がん化学療法薬学分野と生活習慣病治療薬学分野において高度な先進的薬学研究力と薬剤師専門性を育成する教育プログラムの開発とこれによる人材育成を図る。
- 東北がんプロフェッショナル養成推進プラン（H24-H28）
 - ・地域がん医療に貢献するがん専門医療人育成、国際的レベルの臨床研究推進力を備えた人材育成を図る。
- スーパージェネラリスト・ファーマシストの養成事業（H25-H27）
 - ・東北大学の教育資源を活用した時代の求めるスーパージェネラリスト・ファーマシストの養成教育プログラムの構築とこれによる人材育成を図る。
- スーパージェネラリスト・ファーマシストPLUSの養成事業（H28-）
 - ・東北大学の教育資源を活用して培った研究力を革新的医薬品評価開発支援や地域包括ケア等、急性期医療から高齢社会での地域医療で発揮する先駆的な薬剤師スーパージェネラリスト・ファーマシスト・プラスを育成する教育プログラムの構築とこれによる人材育成を図る。

<金沢大学>

- 附属病院との連携
 - ・実務家教員及び臨床系教員が附属病院に薬剤師として登録し、実務を兼務し現場で経験を活かし、講義、実習などを実施した。医療系講義、実習、演習、OSCEを企画、運営する医療教員会議に附属病院薬剤部の病院薬剤部長、副部長、助教が参加した。
 - ・医療系講義、実習、演習、OSCEを企画、運営する医療教員会議に附属病院薬剤部の病院薬剤部長、副部長、助教が参加した。
- 地域薬局との連携
 - ・NPOアカンサス薬局に実務家教員及び職員を派遣し、実習を実施した。
- 金沢大学薬学シンポジウムの開催（*）
 - ・研究者養成の道筋を堅持すべく、教員の教育・研究活動を活性化するため有機・天然物系、生物系、代謝・動態系、物理・分析・衛生系の4研究分野のシンポジウムを各々毎年開催

し、医薬保健研究域薬学系の研究レベルの更なる向上を目指す。

- 新たな研究領域を開拓できる次世代薬学研究者の養成
 - ・ 本学の部局研究力強化型の研究プロジェクトの「先魁プロジェクト：研究領域間融合と研究教育の融合を目指した拠点形成による金沢薬学ブランドの創出」や「新学術創成研究機構ユニット革新的バイオコア・創薬分子プローブユニット」のプロジェクトを発展展開し、複数研究室での研究活動を通して、変化する学問的な要請に対応し問題に果敢に挑戦でき、研究領域横断的な視点と高度な問題解決能力を有する人材の育成を図る。

<名古屋市立大学>

- 公立大学連携薬剤師生涯学習講座【連携】（*）
 - ・ 静岡県立大学と共同で大学が発信する薬剤師職能開発支援向けの研修を実施した。
 - ・ 全9回の研修で、講義は最新の医療、科学知識に特化したもの、実習は薬学部の新しい授業を薬剤師向けに活用した。
- ◇ 参加人数：60名

【2017年（平成29年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

- 高度長期課題研究「分子標的治療薬の血中至適濃度の確立」
 - ・ 大学院生を対象として、が白血病治療に用いられている分子標的治療薬の至適血中濃度を明らかにするための多施設共同研究（現在6施設）を実施した。
 - ・ 体内動態の個体差が大きな薬剤はその要因解明と解決策について検討し、体内動態個体差の要因解明の成果の一部を国際学会（2017年9月、京都）で発表した。

<千葉大学>

- 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（2015年度開始）（*）
 - ・ 学部生を対象として、附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行っている医学部・看護学部学生との病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間各診療科で実施した。
- 実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム（*）
 - ・ 2012～2016年に、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」として実施した事業を2019年度も継続して実施した。
 - ・ 学部生を対象として、アドバンスト教育を千葉県内3薬科大学3大学がそれぞれ特徴的に有する教育プログラムと融合した教育を行った。

<富山大学>

○ 「薬学経済」 (*)

- ・学部生、大学院生を対象として、薬学経済をテーマに、本学卒業生の中からさまざまな職種にて活躍している方々が講義した。

◇ 履修学生：学部生・大学院生 70名

○ 業界説明会 (*)

- ・学部生、大学院生を対象として、薬系卒業の進路として可能性のある業種について説明会を実施した。

◇ 履修学生：学部生・大学院生 約100名

○ 製薬企業・病院にけるインターンシップ (*)

- ・大学院生を対象として、県内の製薬企業または病院において博士課程修了後の自立的なキャリア形成に有用なOJT研修を実施した。

○ 「国際医薬学特論」 (*)

- ・大学院生を対象として、インターンシップに行く前に薬学全般について広く知識を身につけるために、全研究室の教員が専門分野について英語で講義を実施した。

○ 医薬品製剤開発実習・薬効動態学実習 (*)

- ・大学院生を対象として、インターンシップに行く前に広く薬学関連の技能を身につけるために、それぞれの研究室が専門としている技術について1週間程度の実習を行った。

<静岡県立大学>

○ 多職種連携演習 (IPE教育)

- ・学部生を対象として、静岡県立総合病院・静岡済生会病院と協力し、薬学部・看護学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。

○ 地域防災演習

- ・学部生を対象として、COC事業の一環で静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて薬学部と看護学部との合同で防災種連携演習を実施した。

○ 大学院特別講義

- ・大学院生を対象として、年3回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。

○ 薬学講座

- ・全薬学部生（1～5年生必修）及び大学院生を対象として、年2回、薬害被害者の講演と創薬研究で顕著な成果を挙げた研究者をそれぞれ招聘し、体験談を交えた講演を開講した。

○ 月例セミナー

- ・学部生及び大学院生を対象として、年9回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。

○ 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会

- ・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年8回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。

<名古屋市立大学>

○ 改訂コアカリに対応した新しい医療人教育手法の開発 (*)

- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応として、学部生を対象とする臨床準備教育を見直し、より効果的な薬剤師の実践臨床能力開発の研修を試みた。

<京都大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・1年次生を対象として、夏季休暇中に多職種連携医療体験実習を実施した。
- ◇ 参加人数：薬学部40名、医学部114名
- ・4年次生を対象として、後期集中講義として「医療安全学」を開講し、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。
- ◇ 参加人数：薬学部34名、医学部109名

<岡山大学>

○ 全国学生ワークショップ (*)

- ・全国学生ワークショップに学部代表学生1名が参加し、「医療そして社会への貢献～私たちの未来を語ろう～」において社会が薬剤師に求めている役割について全国の薬学部・薬科大学学生が参加して2日間にわたる議論を行った。

○ 学外自主学修合宿研修

- ・学部3年生を対象として、創薬研究を主導する人材のキャリア形成のために、研究機関及び製薬企業の見学と、本学薬学系教員による学生との合宿討論を行った。

<徳島大学>

○ 合同ワークショップ (*)

- ・薬学部、医学部、歯学部の1年生を対象として、「医療における国際貢献」というテーマで合同ワークショップを実施した。

○ 薬学部、医学部、歯学部連携のPBLチュートリアル教育プログラム (*)

- ・学部生を対象として、年2回、3学部合同で、チーム医療の実践に必要な能力・資質の修得を目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案するPBLチュートリアル教育を実施した。

○ 症例解析を中心とした問題立脚型チュートリアル教育プログラム (*)

- ・学部6年生を対象として、薬学部で履修してきたコアカリキュラム及び臨床実務実習での知識・経験を統合して、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討することで、基本的な臨床思考プロセスを修得することを目的として、問題立脚型チュートリアル教育を実施した。

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

- ・学部3年生を対象として、医療人としての倫理観を醸成するために、薬害被害者7名を招聘し、一泊二日での合宿型勉強会を開催した。

2) その他(大学としての取組等)

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシストの養成教育事業

- ・医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、チーム医療において薬剤の専門化として主体的に薬物治療に参画し貢献できる薬剤師を養成するための教育プログラムを構築し、実施した。

<静岡県立大学>

○ 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会

- ・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年8回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。

<金沢大学>

○ 金沢大学薬学シンポジウム (*)

- ・研究者養成の道筋を堅持すべく、教員の教育・研究活動を活性化するため有機・天然物系、生物系、代謝・動態系、物理・分析・衛生系の4研究分野のシンポジウムを各々毎年開催し、医薬保健研究域薬学系の研究レベルの更なる向上を目指す。
- ・初年度シンポジウムは「金沢大学薬学シンポジウム2009」と銘打って開催した。

○ 新たな研究領域を開拓できる次世代薬学研究者の養成 (*)

- ・本学の部局研究力強化型の研究プロジェクトの「先魁プロジェクト：研究領域間融合と研究教育の融合を目指した拠点形成による金沢薬学ブランドの創出」や「新学術創成研究機構ユニット革新的バイオコア・創薬分子プローブユニット」のプロジェクトを発展展開した。
- ・複数研究室での研究活動を通して変化する学問的な要請に対応し問題に果敢に挑戦でき、研究領域横断的な視点と高度な問題解決能力を有する人材の育成を図った。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬剤師生涯学習センタープログラム 公立大学連携薬剤師生涯学習講座 【連携】 (*)

- ・静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修を実施した(2015年度から開催を継続)。本学学部学生、大学院生も参加(薬剤師受講は有料、学生・大学院生は無料)。
- ・全9回のうち、研修4回は静岡県立大学とTV会議システムを利用した講義とし、5回は本

学独自の「薬剤師レベルアップ研修」として3時間の実習・演習タイプの研修を実施した。
◇ 参加人数：薬剤師41名、学部学生31名（延べ）

<広島大学>

○ キャリアセミナー

- ・薬学出身者の多様な進路を紹介するため、企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方をお招きしての講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を3日間開催した。

<九州大学>

○ シンポジウム「大学院4年制博士課程に望まれる薬学研究を考える」 【連携】

- ・大学院4年制博士課程に望まれる薬学研究を考えるために、大学教員と学生、病院・薬局の薬剤師との活発な意見交換を目的として、九州地区の国立大学法人3大学（九州大学、熊本大学、長崎大学）合同シンポジウムを開催した。
- ・本シンポジウムを通して、リバーズ・トランスレーショナル・リサーチを起点にスタートした研究をトランスレーショナル・リサーチにつなげるなど、大学院4年制博士課程における薬学研究が目指すべき方向性を改めて認識する機会となった。

<熊本大学>

○ メディポリス国際陽子線治療センター研修 (*)

- ・メディポリス国際陽子線治療センターの見学、所長及び関連研究者の講演を実施した。

○ 育薬フロンティアセミナー (*)

- ・主に専門薬剤師とその職能についてのセミナー及び育薬（主に薬物適正使用）に関するセミナーを継続的に開催している（これまでに50回）。

◇ 参加人数：学生、薬剤師、教員など延べ1,661名

○ 抄読会 (*)

- ・2006年4月より、毎週火曜日午後7時半から模擬薬局で英語文献を読む抄読会を開催している。
- ・最新の臨床での薬物療法に関する英語文献を読み、その後討論することによって最新の情報を増やし、文献の見方、批判力を高めることを目的とするもので、参加者に制限はない（開局薬剤師、病院薬剤師、薬学研究者、学部生など）

【2018年（平成30年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 高度長期課題研究：「高齢者にける腎機能推定式の補正」

- ・大学院生の研究として、クレアチニンクリアランスを用いる腎機能推算式では予測精度が良くない高齢者での精度向上を目指して、補正推算式を得ることを目的として高齢化の進んだ地域の中核病院との共同研究を行った。
- ・その成果を英文学術雑誌に公表した。

<千葉大学>

- 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（2015年度開始）（*）
 - ・学部生を対象として、附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行っている医学部・看護学部学生との病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間各診療科で実施した。

<富山大学>

- 「薬学経済」（*）
 - ・学部生、大学院生を対象として、薬学経済をテーマに、本学卒業生の中からさまざまな職種にて活躍している方々が講義した。
 - ◇ 履修学生：学部生・大学院生 70名
- 業界説明会（*）
 - ・学部生、大学院生を対象として、薬系卒業の進路として可能性のある業種について説明会を実施した。
 - ◇ 履修学生：学部生・大学院生 約100名

<静岡県立大学>

- 多職種連携演習（IPE教育）
 - ・学部生対象を対象として、静岡県立総合病院・静岡済生会病院と協力し、薬学部・看護学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。
- 地域防災演習
 - ・学部生を対象として、COC事業の一環で静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて薬学部と看護学部との合同で防災種連携演習を実施した。
 - ・ふじのくに防災マイスター養成講座を受講し、ふじのくに防災マイスターを取得することができる。次年度からは必修とする予定である。
- 防災講習会
 - ・学部生を対象として、地域防災演習を受講しふじのくに防災マイスターの資格のある学生が高校生の防災意識を高めるために、防災に関する講演や避難所のシミュレーションゲームなどを行った。
- 静岡県薬事課研修プログラム
 - ・静岡県薬事課の協力により、薬事行政・GMP監視業務に関する研修を実施した。
- 静岡救命連携演習
 - ・学部生を対象として、BLSプロバイダーコースを学内で開催し、医療者として必要な1次

救命処置を身に着け、国際的資格を取得するための演習を実施した。次年度からは必修とする予定である。

○ AED講習会

- ・学部生を対象として、早期体験学習及び静岡救命連携演習の発展カリキュラムとして、高校生や地域の方を対象にAED講習会を実施した。静岡救命連携演習でBLSの資格を取得した学生と教員により指導を行った。

○ 大学院特別講義

- ・大学院生を対象として、年3回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。

○ 月例セミナー

- ・学部生及び大学院生を対象として、年9回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。

○ 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会

- ・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年8回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。

<名古屋市立大学>

○ 改訂コアカリに対応した新しい医療人教育手法の開発（*）

- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応として、臨床準備教育を見直し、新しいより効果的な薬剤師の実践臨床能力開発の研修を試みた。

○ 岐阜薬科大学 薬学生に必要な経営戦略マネジメントワークショップ【連携】

- ・学部生を対象として、岐阜薬科大学が企画した医療経営戦略の専門家を招聘しての2日間にわたる研修に本学から薬学部4年生1名、5年生2名が参加し、参加した学生や教員、講師と情報交換を積極的に行った。

○ 静岡県立大学 薬事研修プログラム【連携】

- ・静岡県立大学が企画した薬事研修プログラムにおいて、静岡県薬事課の協力により、多くの製薬関連工場がある静岡県の特徴を活かしたレギュラトリーサイエンスに関する研修プログラムを実施した。

◇ 参加人数：5年生1名

<岐阜薬科大学>

○ 薬学生に必要な経営戦略とマネジメント

- ・学部生を対象として、薬学生に必要な経営戦略とマネジメントを学習するプログラムの構築を図った。

<京都大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・1年次生を対象として、夏季休暇中に多職種連携医療体験実習を実施した。
- ◇ 参加人数：薬学部38名、医学部医学科109名、医学部人間健康科学科8名
- ・4年次生を対象として、後期集中講義として「医療安全学」を開講し、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。
- ◇ 参加人数：薬学部24名、医学部110名

<岡山大学>

○ 全国学生ワークショップ (*)

- ・全国学生ワークショップに学部代表の6年次生1名が参加し、「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと～将来への想いを共有しよう～」というテーマで、全国の薬学部・薬科大学学生が参加して2日間にわたる議論を行った。

○ 高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発 学生ワークショップ (主幹校主催プログラム) 【連携】

- ・国公立大学薬学部卒業生が目指すべき人物像を設定し、これをもとにディプロマ・ポリシーとそれを達成するための教育を考え、あるべきカリキュラムマップを作成した。

◇ 参加人数：5年次生2名、卒業生1名、教員1名

○ 厚生労働省及びPMDA見学会 (主幹校主催プログラム) 【連携】 (*)

- ・学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。

◇ 参加人数：5年次生4名

○ 研究者教員キャリア形成見学・合宿研修 (*)

- ・3年次生を対象として、研究者を目指す人材のキャリア形成を促進するために、研究機関及び製薬企業の見学と、本学薬学系教員による学生との合宿討論を実施した。
- ・幅広い「知」を備えた研究型薬剤師 (Pharmacist-Scientist) や企業研究者・開発者の育成を目的として、薬学生が製薬企業や研究所における業務の実情や薬学系教員のキャリアパスを学ぶ研修セミナーを実施した。
- ・若手教員による研究・教育歴の紹介とディスカッションにより、参加学生が自らのキャリアパスにおける将来像を描く機会となった。

◇ 参加人数：3年次生26名、4年次生1名、大学院生1名、教員3名

○ 微研財団観音寺研究所及び理化学研究所神戸事業所の見学会 (主幹校主催プログラム) 【連携】 (*)

- ・学部生及び大学院生を対象として、微研財団及び理化学研究所 (神戸) に将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に対して、最先端の創薬研究及び生物科学研究が行われている研究所を見学する機会を提供し、学生の研究意欲及び創薬への関心を高め、先導的な研究者養成につなげることを目的として企画・実施された。

◇ 参加人数：4年次生1名、5年次生1名

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

- ・学部3年生を対象として、医療人としての倫理観を醸成するために、薬害被害者7名を招聘し、一泊二日での合宿型勉強会を開催した。

○ キャリアセミナー

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬学出身者の多様な進路を紹介するために、企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方をお招きしての講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を3日間開催した。

○ 手術室見学実習

- ・学部生を対象として、手術室における薬剤師業務を知るために、麻酔科教授ならびに手術室担当薬剤師による講義を受けた後に、実際に手術室に入り、その業務を見学した。

○ 精神科外来実習

- ・学部生を対象として、医師による診断から処方箋作成への流れを知るために、精神科外来診療室での診療への陪席し、必要に応じて医師からの指示による説明書の作成と患者への説明を行い、また精神科入院病棟での担当薬剤師に付き添い、入院時の服薬指導などを体験する実習を行った。

<徳島大学>

○ 第12回「チーム医療入門」 蔵本地区1年生 合同ワークショップ (*)

- ・薬学部、医学部、歯学部の1年生を対象として、「地域包括ケアの実現」というテーマで合同ワークショップを実施した。

○ 第6回学部連携PBLチュートリアル (*)

- ・高学年の薬学部、医学部、歯学部の学生を対象として、チーム医療の実践に必要な能力・資質を身につけさせることを目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレムマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案するPBLチュートリアルを実施した。

○ 平成30年度 症例解析総合演習 (*)

- ・薬学部6年生を対象として、薬剤師に必要とされる基本的な臨床思考プロセスの修得を目的として、薬学部で履修してきたコアカリキュラム及び臨床実務実習での知識・経験を統合し、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討する演習を実施した。

<熊本大学>

○ メディポリス国際陽子線治療センター研修 (*)

- ・参画大学連携プログラムとして、メディポリス国際陽子線治療センターの見学、所長及び関連研究者の講演を聞く研修を実施した。

2) その他 (大学としての取組等)

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシストの養成教育事業

- ・医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、チーム医療において薬剤の専門化として主体的に薬物治療に参画し貢献できる薬剤師を養成するための教育プログラムを構築し、実施した。

<金沢大学>

○ 金沢大学薬学シンポジウム

- ・研究者養成の道筋を堅持すべく、教員の教育・研究活動を活性化するため有機・天然物系、生物系、代謝・動態系、物理・分析・衛生系の4研究分野のシンポジウムを各々毎年開催し、医薬保健研究域薬学系の研究レベルの更なる向上を目指す。
- ・初年度シンポジウムは「金沢大学薬学シンポジウム2009」として、継続的に開催した。

○ 新たな研究領域を開拓できる次世代薬学研究者の養成

- ・本学の部局研究力強化型の研究プロジェクトの「先魁プロジェクト：研究領域間融合と研究教育の融合を目指した拠点形成による金沢薬学ブランドの創出」や「新学術創成研究機構ユニット革新的バイオコア・創薬分子プローブユニット」のプロジェクトを発展展開した。
- ・複数研究室での研究活動を通して変化する学問的な要請に対応し問題に果敢に挑戦でき、研究領域横断的な視点と高度な問題解決能力を有する人材の育成を図った。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬剤師生涯学習センタープログラム 公立大学連携薬剤師生涯学習講座【連携】

(*)

- ・静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修を実施した（2015年度から開催を継続）。本学学部学生、大学院生も参加（薬剤師受講は有料、学生・大学院生は無料）。
- ・全9回のうち、研修4回は静岡県立大学とTV会議システムを利用した講義とし、5回は本学独自の「薬剤師レベルアップ研修」として3時間の実習・演習タイプの研修を実施した。
- ・本年度より、薬学部3年次生の授業の一部に受講した薬剤師と一緒に演習を行うプログラムを3回導入し、学生は薬剤師としての生涯研鑽の重要性を理解するとともに、参加薬剤師は、新しい学習方法の体験とその効果を実感できるプログラムとした。

◇ 参加人数：薬剤師114名、学部学生107名（延べ）

<岐阜薬科大学>

○ ルーブリック評価に伴う学生管理システム

- ・学生評価全体に関するルーブリック評価に伴う学生管理システムの構築を図った。

<岡山大学>

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム講演会3 **(*)**

- ・「次世代の薬剤師と障害学習及び薬剤師認定制度認証機構の役割」と題した公開講演会を開催した。
 - ・薬剤師認定制度認証機構代表理事の講演により、次世代の薬剤師に求められる資質や生涯学習及び薬剤師認定制度認証機構の役割が紹介され、参加者による討論が行われた。
- ◇ 参加人数：学生17名、教員9名、薬剤師2名

<九州大学>

○ シンポジウム「アドバンスト教育研究プログラムのグローバルな展開」 **【連携】**

- ・九州地区の国立大学法人3大学（九州大学、熊本大学、長崎大学）合同シンポジウムを開催（担当校：熊本大学）した。
- ・九州大学の取組について担当教員から紹介した後、本学の薬学部臨床薬学科6年次生2名が「九州大学薬学部臨床薬学科における国際研修；台湾短期留学プログラム」、「地域薬剤師会との共同事業；アドヒアランス向上を目指した節薬バッグ運動」というタイトルで発表した。
- ・各大学の海外研修や地域における取り組みについて情報共有を行い、本事業の発展と、高度先導的薬剤師の養成に向けて活発な議論を行った。

【2019年（平成31年/令和元年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<千葉大学>

○ 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（2015年度開始）

- ・附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行っている医学部・看護学部学生との病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間行った。

<富山大学>

○ 「薬学経済」 **(*)**

- ・学部生、大学院生を対象として、薬学経済をテーマに、本学卒業生の中からさまざまな職種にて活躍している方々が講義した。
- ◇ 履修学生：学部生・大学院生 70名

<静岡県立大学>

○ 多職種連携演習（IPE教育）

- ・学部生対象を対象として、静岡県立総合病院・静岡済生会病院と協力し、薬学部・看護学

- 部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。
- 地域防災演習
 - ・学部生を対象として、COC事業の一環で静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて薬学部と看護学部との合同で防災種連携演習を必修科目として実施した。
 - ・ふじのくに防災マイスター養成講座を受講し、ふじのくに防災マイスターを取得することができる。
 - 防災講習会
 - ・学部生を対象として、地域防災演習を受講しふじのくに防災マイスターの資格のある学生が高校生の防災意識を高めるために、防災に関する講演や避難所のシミュレーションゲームなどを行った。
 - 静岡県薬事課研修プログラム
 - ・静岡県薬事課の協力により、薬事行政・GMP監視業務に関する研修を実施した。
 - 静岡救命連携演習
 - ・学部生を対象として、必修科目としてBLSプロバイダーコースを学内で開催し、医療者として必要な1次救命処置を身に付け、国際的資格を取得するための演習を実施した。
 - AED講習会
 - ・学部生を対象として、早期体験学習及び静岡救命連携演習の発展カリキュラムとして、高校生や地域の方を対象にAED講習会を実施した。静岡救命連携演習でBLSの資格を取得した学生と教員により指導を行った。
 - 静岡県薬事課意見交換会
 - ・静岡県薬事課職員、薬局・病院薬剤師、5年次生が参加して、薬剤師業務に関する意見交換会を開催した。
 - 大学院特別講義
 - ・大学院生を対象として、年3回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。
 - 薬学講座
 - ・学部生（1～5年生必修）及び大学院生を対象として、薬害被害者の講演と創薬研究で顕著な成果を挙げた研究者をそれぞれ招聘し、体験談を交えた講演会を行った。
 - 月例セミナー
 - ・学部生及び大学院生を対象として、年9回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。
 - 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会
 - ・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年8回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。

<名古屋市立大学>

- 改訂コアカリに対応した新しい医療人教育の開発と実施（*）
 - ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応として、新しいより効果的な薬剤師の実

実践臨床能力開発の研修を試みた。

<京都大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・ 1年次生を対象として、夏季休暇中に多職種連携医療体験実習を実施した。
- ◇ 参加人数：薬学部13名、医学部医学科110名、医学部人間健康科学科21名
- ・ 4年次生を対象として、後期集中講義として「医療安全学」を開講し、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。
- ◇ 参加人数：薬学部18名、医学部100名

<岡山大学>

○ 全国学生ワークショップ (*)

- ・ 全国学生ワークショップに学部代表の6年次生1名が参加し、「医療そして社会への貢献～私たちが未来を創ろう～」というテーマで、全国の薬学部・薬科大学学生が参加して2日間にわたる議論を行った。

○ 大学間連携 研究所等見学・研修プログラム (*)

- ・ 3年次生を対象として、研究者を目指す人材のキャリア形成のために、研究機関および製薬企業の見学と、本学薬学系教員による学生との合宿討論を行った。
- ・ 本研修は、研究室配属直後に最先端の研究機器を備えた国立研究所や企業の研究所などを見学することで、自身の研究に対するモチベーションを高め、研究マインドを持った薬剤師・創薬科学者になるべく努力を促すことを目的とする。
- ・ 近隣の就実大学から4、5年次生が参加し、卒業研究での経験談を聞くことなどを通して有益な交流を行うことができた。
- ◇ 参加人数：岡山大学3年次生21名、就実大学4、5年次生6名

○ 新しい緩和医療を体験学習する～リボン洞戸における宿泊研修～ (*)

- ・ 4年次生を対象として、3日間の宿泊研修により、免疫力を上げ、がんを予防するための生活習慣「リボン5か条」を体験することにより、これからの新しい緩和医療について学習した。
- ・ 適切な治療を行うために患者に信頼される態度・コミュニケーション力が非常に大切であるということを学んだ。
- ◇ 参加人数：4年次生2名

○ 厚生労働省及びPMDA見学会 (主幹校主催プログラム) 【連携】 (*)

- ・ 学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。
- ◇ 参加人数：5年次生4名

○ 研究者教員キャリア形成見学・合宿研修 (*)

- ・ 3年次生を対象として、研究者を目指す人材のキャリア形成を促進するために、研究機関

及び製薬企業の見学と、本学薬学系教員による学生との合宿討論を実施した。

- ・幅広い「知」を備えた研究型薬剤師（Pharmacist-Scientist）や企業研究者・開発者の育成を目的として、薬学生が製薬企業や研究所における業務の実情や薬学系教員のキャリアパスを学ぶ研修セミナーを実施した。
- ・若手教員による研究・教育歴の紹介とディスカッションにより、参加学生が自らのキャリアパスにおける将来像を描く機会となった。

◇ 参加人数：3年次生26名、4年次生1名、大学院生1名、教員3名

○ 微研財団観音寺研究所及び理化学研究所神戸事業所の見学会（主幹校主催プログラム）【**連携**】（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、微研財団及び理化学研究所（神戸）に将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に対して、最先端の創薬研究及び生物科学研究が行われている研究所を見学する機会を提供し、学生の研究意欲及び創薬への関心を高め、先導的な研究者養成につなげることを目的として企画・実施された。

◇ 参加人数：4年次生1名、5年次生1名

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

- ・学部3年生を対象として、医療人としての倫理観を醸成するために、薬害被害者7名を招聘し、一泊二日での合宿型勉強会を開催した。

○ キャリアセミナー

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬学出身者の多様な進路を紹介するために、企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方をお招きしての講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を2日間開催した。

○ 手術室見学実習

- ・学部生を対象として、手術室における薬剤師業務を知るために、麻酔科教授ならびに手術室担当薬剤師による講義を受けた後に、実際に手術室に入り、その業務を見学した。

○ 精神科外来実習

- ・学部生を対象として、医師による診断から処方箋作成への流れを知るために、精神科外来診療室での診療への陪席し、必要に応じて医師からの指示による説明書の作成と患者への説明を行い、また精神科入院病棟での担当薬剤師に付き添い、入院時の服薬指導などを体験する実習を行った。

<徳島大学>

○ 第13回「チーム医療入門」 蔵本地区1年生 合同ワークショップ（*）

- ・薬学部、医学部、歯学部の1年生を対象として、「地域包括ケアの実現」というテーマで合同ワークショップを実施した。

○ 第7回学部連携PBLチュートリアル（*）

- ・高学年の薬学部、医学部、歯学部の学生を対象として、チーム医療の実践に必要な能力・

資質を身につけさせることを目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレムマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案するPBLチュートリアルを実施した。

○ 2019年度 症例解析総合演習（*）

- ・薬学部6年生を対象として、薬剤師に必要とされる基本的な臨床思考プロセスの修得を目的として、薬学部で履修してきたコアカリキュラム及び臨床実務実習での知識・経験を統合し、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討する演習を実施した。

<九州大学>

○ 厚生労働省およびPMDA見学会（主幹校主催プログラム）【連携】

- ・本プログラムにて開催された厚生労働省およびPMDA見学会に学部生4名が参加し、希少疾患などの開発を促進する仕組みをはじめアンメット・メディカル・ニーズへの対応や様々な国やWHOとの連携について理解を深めた。

<熊本大学>

○ メディポリス国際陽子線治療センター研修（*）

- ・参画大学連携プログラムとして、メディポリス国際陽子線治療センターの見学、所長及び関連研究者の講演を聞く研修を実施した。

2) その他（大学としての取組等）

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシスト・PLUSの養成プログラム

- ・東北大学で取り組んできた高度専門薬剤師養成とスーパージェネラリスト・ファーマシスト養成事業を拡大し、革新的医薬品評価開発支援と高齢化社会の新たな医療を担うハイレベルな薬剤師スーパージェネラリスト・ファーマシスト・PLUSを育成するプログラムを構築した。

○ 東北次世代がんプロ養成プラン

- ・文部科学省が実施する「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」に東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学が連携する東北次世代がんプロフェッショナル養成推進プランが採択され、これを開始した。
- ・このプランは、第2期がんプロ（正式名：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）からの得られた成果からがん医療における新たな課題、ニーズが生まれ、これらの問題に対応すべくプログラムを進める。

○ 東北大学未来型医療創造卓越大学院プログラム

- ・医学系、歯学、薬学、生命科学、情報科学、経済学、文学、教育学、医工学に所属する学生が、未来の医療をより優れたものへと変革する人材の育成を目指し、データ（Data）と技術（Technology）を駆使して未来の社会（Society）の課題解決に取り組み、超高齢社会

である東北地方、日本そして世界の医療・福祉の理想を求めて学習するプログラムを実施した。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬剤師生涯学習センタープログラム 公立大学連携薬剤師生涯学習講座 【連携】（*）

- ・ 静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修を実施した（2015年度から開催を継続）。本学学部学生、大学院生も参加（薬剤師受講は有料、学生・大学院生は無料）。
- ・ 全9回のうち、研修4回は静岡県立大学とTV会議システムを利用した講義とし、5回は本学独自の「薬剤師レベルアップ研修」として3時間の実習・演習タイプの研修を実施した。
- ・ 1年生、3年次生は、授業の一環として夜間講義4回とともに薬剤師と一緒に演習を行うプログラムを3回実施し、学生は薬剤師としての生涯研鑽の重要性を理解するとともに、参加薬剤師は新しい学習方法の体験とその効果を実感できるプログラムとした。

◇ 参加人数：薬剤師73名、学部学生32名（延べ）

<岐阜薬科大学>

○ ルーブリック評価に伴う学生管理システム

- ・ 学生評価全体に関するルーブリック評価に伴う学生管理システムの構築を図った。

<九州大学>

○ 九州地区国立大学法人3大学合同シンポジウム 【連携】

- ・ 例年、九州地区の国立大学法人3大学（九州大学、熊本大学、長崎大学）合同シンポジウムを開催しているが、本年は開催しなかった。

【2020年（令和2年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<千葉大学>

○ 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（2015年度開始）

- ・ 附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行っている医学部・看護学部学生との病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間行った。

<富山大学>

○ 「薬学経済」（*）

- ・ 学部生、大学院生を対象として、薬学経済をテーマに、本学卒業生の中からさまざまな職種にて活躍している方々が講義した。

◇ 履修学生：学部生・大学院生 70名

○ 薬都とやま未来懇談会（*）

- ・薬系卒業の進路として可能性のある業種について説明会を実施した。
 - ・今年度はオンデマンドでの実施を行ったが、参加者が多く
（閲覧人数：約200名、コメント数：約250件、参加企業数：34社）と、かえって例年より盛況であった。学部生、大学院生を対象として、薬系卒業の進路として可能性のある業種について説明会を実施した。
- ◇ 参加企業数：34社、参加人数：延べ約500名、オンデマンド閲覧人数：約200名、コメント数約250件

<静岡県立大学>

○ 多職種連携演習（IPE教育）

- ・学部生を対象として、静岡県立総合病院・静岡済生会病院と協力し、薬学部・看護学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。

○ 地域防災演習

- ・学部生を対象として、COC事業の一環で静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて薬学部と看護学部との合同で防災種連携演習を必修科目として実施した。
- ・ふじのくに防災マイスター養成講座を受講し、ふじのくに防災マイスターを取得することができる。

○ 防災講習会

- ・学部生を対象として、地域防災演習を受講しふじのくに防災マイスターの資格のある学生が高校生の防災意識を高めるために、防災に関する講演や避難所のシミュレーションゲームなどを行った。

○ 静岡救命連携演習

- ・学部生を対象として、必修科目としてBLSプロバイダーコースを学内で開催し、医療者として必要な1次救命処置を身に付け、国際的資格を取得するための演習を実施した。

○ AED講習会

- ・学部生を対象として、早期体験学習及び静岡救命連携演習の発展カリキュラムとして、高校生や地域の方を対象にAED講習会を実施した。静岡救命連携演習でBLSの資格を取得した学生と教員により指導を行った。

○ 静岡県薬事課意見交換会

- ・静岡県薬事課職員、薬局・病院薬剤師、5年次生が参加して、薬剤師業務に関する意見交換会を開催した。

○ 大学院特別講義

- ・大学院生を対象として、年3回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。

○ 薬学講座

- ・学部生（1～5年生必修）及び大学院生を対象として、薬害被害者の講演と創薬研究で顕著な成果を挙げた研究者をそれぞれ招聘し、体験談を交えた講演会を行った。

- 月例セミナー
 - ・学部生及び大学院生を対象として、年6回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。
- 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会
 - ・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年4回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。
- 静岡3大学連携講義（大学院：フロンティア科学特論）
 - ・東海大学、静岡大学及び静岡県立大学の3大学連携大学院講義「細胞マイクロ環境から全身の生命活動を理解する～細胞科学研究最前線～」をオンラインで実施した。講師は3大学の教員と外部講師が務めた。本学からは25名の大学院生と教員が参加した。

<名古屋市立大学>

- 改訂コアカリに対応した新しい医療人教育の開発と実施（*）
 - ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応として、新しいより効果的な薬剤師の実践臨床能力開発の研修を実施した。

<京都大学>

- 多職種連携プログラム
 - ・1年次生を対象として、夏季休暇中に多職種連携医療体験実習を実施した。
 - ◇ 参加人数：薬学部21名、医学部医学科108名、医学部人間健康科学科24名
 - ・4年次生を対象として、後期集中講義として「医療安全学」を開講し、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。
 - ◇ 参加人数：薬学部11名、医学部123名

<岡山大学>

- 全国学生オンラインワークショップ
 - ・「社会に求められる薬剤師としての力」というテーマで、オンライン（Zoom）のブレイクアウトルームセッションを行い、高度医療人としてのキャリアについてディスカッションを行った。
 - ・オンライン形式での開催であったが、活発な討論が行われた。
- 薬学研究部門
 - ・1年次生、2年次生を対象として、研究職、教育研究職あるいは、Pharmacist-Scientistな、研究を必須とする職業のキャリア志向を醸成するために、研究室の単なる見学ではなく、研究（実験）を実体験させる演習を実施した。
- 厚生労働省及びPMDAオンライン見学会（主幹校主催プログラム）【連携】
 - ・学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。

- ・それぞれの担当者からの業務概要の説明と質疑応答により、医薬品・医療機器の承認審査等に関わる機関でありながら、両者の業務の違いに関する理解を深め、薬系技官としてのキャリアややりがいについて学んだ。

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

- ・学部3年生を対象とした勉強会について、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、例年の合宿型勉強会を中止し、広島で開催された薬害根絶フォーラムへの参加に切り替えて実施した。

○ キャリアセミナー

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬学出身者の多様な進路を紹介するために、企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方をお招きしての講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を2日間開催した。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、オンラインでの開催となった。

○ 手術室見学実習

- ・学部生を対象として、手術室における薬剤師業務を知るために、麻酔科教授ならびに手術室担当薬剤師による講義を受けた後に、実際に手術室に入り、その業務を見学した。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、一部オンラインで実施した。

○ 精神科外来実習

- ・学部生を対象として、医師による診断から処方箋作成への流れを知るために、精神科外来診療室での診療への陪席し、必要に応じて医師からの指示による説明書の作成と患者への説明を行い、また精神科入院病棟での担当薬剤師に付き添い、入院時の服薬指導などを体験する実習を行った。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、一部オンラインで実施した。

<山陽小野田市立山口東京理科大学>

○ アクティブラーニング方式による総合医療薬学プログラム (*)

- ・3年次生、4年次生を対象として、必修科目「総合医療薬学1～7」におけるSGDを中心とするアクティブラーニングを取り入れた教育システムの開発を行った。
- ・代表的8疾患に関係したシナリオをもとにした文献調査、グループディスカッションから、発表資料作成、成果報告、質疑応答までの一連を繰り返し行なうことにより、疾病と薬の理解だけでなく、思考的問題解決能力、コミュニケーション能力の醸成を図った。
- ・SDG室とプレナリー室にはアクティブラーニングに相応しい装置として、講堂放送システムなどを設置することにより、より高度の成果が期待できる。

<徳島大学>

○ 第13回「チーム医療入門」 蔵本地区1年生 合同ワークショップ (*)

- ・薬学部、医学部、歯学部の1年生を対象として、「地域包括ケアの実現」というテーマで合

同ワークショップを実施した。

○ 第8回学部連携PBLチュートリアル

- ・高学年の薬学部、医学部、歯学部の学生を対象として、チーム医療の実践に必要な能力・資質を身につけさせることを目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案するPBLチュートリアルを実施した。
- ・本年度は、新型コロナウイルス感染症のため、遠隔によるグループワーク・ディスカッションを行った。

○ 2020年度 症例解析総合演習

- ・薬学部6年生を対象として、薬剤師に必要とされる基本的な臨床思考プロセスの修得を目的として、薬学部で履修してきたコアカリキュラム及び臨床実務実習での知識・経験を統合し、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討する演習を実施した。
- ・本年度は、新型コロナウイルス感染症のため、遠隔による課題提示により行った。

<九州大学>

○ 厚生労働省及びPMDAオンライン見学会（主幹校主催プログラム） 【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象に、厚生労働省及びPMDAを将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。
- ・厚生労働省や関連教育研究機関・組織における医療行政やレギュラトリーサイエンスに関するインターンシップ等を開発・実施することにより、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師の養成が期待できる。

2) その他（大学としての取組等）

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシスト・PLUSの養成プログラム

- ・東北大学で取り組んできた高度専門薬剤師養成とスーパージェネラリスト・ファーマシスト養成事業を拡大し、革新的医薬品評価開発支援と高齢化社会の新たな医療を担うハイレベルな薬剤師スーパージェネラリスト・ファーマシスト・PLUSを育成するプログラムを実施した。

○ 東北次世代がんプロ養成プラン

- ・文部科学省が実施する「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」に東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学が連携する東北次世代がんプロフェッショナル養成推進プランを実施した。
- ・このプランは、第2期がんプロ（正式名：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）からの得られた成果からがん医療における新たな課題、ニーズが生まれ、これらの問題に対応すべくプログラムを進める。

○ 東北大学未来型医療創造卓越大学院プログラム

- ・ 医学系、歯学、薬学、生命科学、情報科学、経済学、文学、教育学、医工学に所属する学生が、未来の医療をより優れたものへと変革する人材の育成を目指し、データ（Data）と技術（Technology）を駆使して未来の社会（Society）の課題解決に取り組み、超高齢社会である東北地方、日本そして世界の医療・福祉の理想を求めて学習するプログラムを実施した。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬剤師生涯学習センタープログラム 公立大学連携薬剤師生涯学習講座【連携】（*）

- ・ 静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修を実施した（2015年度から開催を継続）。本学学部学生、大学院生も参加（薬剤師受講は有料、学生・大学院生は無料）。
 - ・ 講義は「臨床現場に必要な薬学最新基礎知識」に特化したもので、実習・演習は薬学部の新しい授業を薬剤師向けに活用した研修を実施した。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症対応としてオンライン（Zoom）による遠隔受講を採用し、年間のプログラムを感染症の状況を勘案し日程を随時変更しながら全てのプログラムを実施した。
 - ・ 3年次生は、授業の一環として基礎薬学演習に薬剤師と一緒に演習を行うプログラムを3回実施し（Zoomによる遠隔演習）、学生は薬剤師としての生涯研鑽の重要性を理解するとともに、参加薬剤師は新しい学習方法の体験とその効果を実感できるプログラムとした。
- ◇ 2020年度参加者：薬剤師74名、学部学生64名（延べ）

【2021年（令和3年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ（主幹校主催プログラム） **【連携】**

- ・ オンライン（Zoom）によって、教員、学部学生及び大学院生を対象として、第1部は薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に係るミニシンポジウム、第2部は大学院博士課程進学を促進するためのキャリア形成ワークショップが開催された。
- ・ 教員及び学生にとって、薬学教育モデル・コアカリキュラムの在り方、薬学教育の課題を考える良い機会となった。
- ・ キャリア形成ワークショップでは、SGDによって大学院進学の意味・終了後のキャリア形成について討議が行われた。

<千葉大学>

○ 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（2015年度開始）

- ・学部生を対象として、附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行っている医学部・看護学部学生と病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間行った。

<富山大学>

○ 就職・キャリア支援プログラム (*)

- ・学部生及び大学院生を対象として、就職、キャリア支援を目的として、以下の講座や、ガイダンス・説明会等を実施した。
- ・就職ガイダンス「自己分析講座」
- ・就職ガイダンス「適性検査対策講座」
- ・就職活動にむけて、採用動向 就職情報収集のポイント（薬学系専門分野）
- ・先輩の就活体験談から学ぶ「誰も教えてくれない」募集要項の見方講座
- ・就活準備スタートアップ講座
- ・就活準備ガイダンス

○ 「製薬企業概論」

- ・来年度入学の1年次生を対象として、富山県の製薬企業における研究やMR職以外に薬剤師の活躍について学ぶ（予定）。

<静岡県立大学>

○ 多職種連携演習 (IPE教育)

- ・学部生を対象として、静岡県立総合病院・静岡済生会病院と協力し、薬学部・看護学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。

○ 地域防災演習

- ・学部生を対象として、COC事業の一環で静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて薬学部と看護学部との合同で防災種連携演習を必修科目として実施した。
- ・ふじのくに防災マイスター養成講座を受講し、ふじのくに防災マイスターを取得することができる。

○ 防災講習会

- ・学部生を対象として、地域防災演習を受講しふじのくに防災マイスターの資格のある学生が高校生の防災意識を高めるために、防災に関する講演や避難所のシミュレーションゲームなどを行った。

○ 静岡救命連携演習

- ・学部生を対象として、必修科目としてBLSプロバイダーコースを学内で開催し、医療者として必要な1次救命処置を身に付け、国際的資格を取得するための演習を実施した。

○ AED講習会

- ・学部生を対象として、早期体験学習及び静岡救命連携演習の発展カリキュラムとして、高校生や地域の方を対象にAED講習会を実施した。静岡救命連携演習でBLSの資格を取得した学生と教員により指導を行った。

- ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業会
 - ・学部生を対象として、仮想現実（VR）とシミュレーターを活用して臨場感に富む学習環境を作り、学修者の臨床能力に応じた教育手法の開発を図った。本年度は事業の進め方とVR映像の概略について基礎的調査と打ち合わせを行った。
- 大学院特別講義
 - ・大学院生を対象として、年3回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。
- 薬学講座
 - ・学部生（1～5年生必修）及び大学院生を対象として、薬害被害者の講演と創薬研究で顕著な成果を挙げた研究者をそれぞれ招聘し、体験談を交えた講演会を行った。
- 月例セミナー
 - ・学部生及び大学院生を対象として、年8回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。
- 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会
 - ・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年4回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。
- 静岡3大学連携講義（大学院：フロンティア科学特論） **【連携】**
 - ・東海大学、静岡大学及び静岡県立大学の3大学連携大学院講義「細胞マイクロ環境から全身の生命活動を理解する～細胞科学研究最前線～」をオンラインで実施した。講師は3大学の教員と外部講師が務めた。本学からは25名の大学院生と教員が参加した。

<名古屋市立大学>

- 厚生労働省及びPMDAオンライン見学会（主幹校主催プログラム） **【連携】**
 - ・学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。
 - ・厚生労働省や関連教育研究機関・組織における医療行政やレギュラトリーサイエンスに関するインターンシップ等を開発・実施することにより、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師の養成が期待できる。
- 改訂コアカリに対応した新しい医療人教育の開発と実施 **（*）**
 - ・4年次生を対象として、以下のプログラムを開発・実施した。
 - ・患者、薬剤師模擬体験型学習：4週間の体験学習
 - ・手話による服薬指導研修
 - ・精神科専門病院の薬剤師、臨床心理士による特別演習
 - ・高齢者医療におけるポリファーマシー改善を目的とした外来講師授業
 - ・経腸栄養シミュレーターを利用した経腸栄養剤と簡易懸濁法の体験実習
 - ・薬局薬剤師と連携した薬剤師実務研修
 - ・オンライン服薬指導演習

◇ 参加人数：4年次生59名

<岐阜薬科大学>

○ WEBシラバスシステム導入

- ・学部生及び大学院生を対象として、WEBシラバスシステムを導入して、教育効果の向上を図った。

○ ロールモデル講演会

- ・4年次生を対象として、岐阜薬科大学を卒業後米国でPhD.を取得し、大学病院で活躍しているOGの講演会を実施した。

○ キャリアパス講演会

- ・4年次生を対象として、岐阜薬科大学を卒業後大学病院で薬剤師として勤務しながら博士（薬学）を取得し、薬剤師と臨床研究を並行して実施するなど活躍しているOGの講演会を実施した。

<京都大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・1年次生を対象として、夏季休暇中に多職種連携医療体験実習を実施した。

◇ 参加人数：薬学部15名、医学部医学科111名、医学部人間健康科学科12名

- ・4年次生を対象として、後期集中講義として「医療安全学」を開講し、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。

◇ 参加人数：薬学部19名、医学部108名

<和歌山県立医科大学>

○ 1年次生対象の「ケアマインド教育」

- ・「ケアマインド教育」は、医療系総合大学の特色を生かして、1年次から1年間にわたり医学部、保健看護学部及び薬学部の学生がグループを組み、緩和医療等の患者ケアに関わるテーマについて、演習形式の授業を行うIPE基礎プログラムである。
- ・薬学部開設1年目の2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面授業が十分に実施できなかったが、3学部をつなぐオンライン授業を取り入れて実施した。

<岡山大学>

○ 全国学生オンラインワークショップ

- ・オンライン（Zoom）開催の全国学生ワークショップへ参加し、薬剤師としての多様なキャリア等についてディスカッションを行った。
- ・オンライン形式での開催であったが、活発な討論が行われた。

○ 国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ（主幹校主催プログラム） **【連携】**

- ・オンライン（Zoom）によって、教員、学部学生及び大学院生を対象として、第1部は薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に係るミニシンポジウム、第2部は大学院博士課程進

学を促進するためのキャリア形成ワークショップが開催された。

- ・教員及び学生にとって、薬学教育モデル・コアカリキュラムの在り方、薬学教育の課題を考える良い機会となった。
- ・キャリア形成ワークショップでは、SGDによって大学院進学の意義・修了後のキャリア形成について討議が行われた。

○ 厚生労働省及びPMDAオンライン見学会（主幹校主催プログラム）【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象に、厚生労働省及びPMDAを来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。
- ・厚生労働省や関連教育研究機関・組織における医療行政やレギュラトリーサイエンスに関するインターンシップ等を開発・実施することにより、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師の養成が期待できる。

○ 医療人講演会（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、オンライン形式で岡良成（岡山市幸町記念病院 外科 医長）による講演会を実施した。

○ 薬学研究部門（*）

- ・1年次生、2年次生を対象として、研究職、教育研究職あるいは、Pharmacist-Scientistな、研究を必須とする職業のキャリア志向を醸成するために、研究室の単なる見学ではなく、研究（実験）を実体験させる演習を実施した。
- ・新型コロナウイルスの感染状況を配慮して数日から一週間程度の期間実施した。

◇ 参加人数：1年次・2年次生27名、協力研究室：11研究室

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

- ・学部3年生を対象として、医療人としての倫理観を醸成するために薬害被害者1名を招聘し、勉強会を開催した。

○ キャリアセミナー

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬学出身者の多様な進路を紹介するために、オンライン形式で企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方をお招きしての講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を2日間開催した。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、オンラインでの開催となった。

○ 手術室見学実習

- ・学部生を対象として、手術室における薬剤師業務を知るために、麻酔科教授ならびに手術室担当薬剤師による講義を受けた後に、実際に手術室に入り、その業務を見学した。

○ 精神科外来実習

- ・学部生を対象として、医師による診断から処方箋作成への流れを知るために、精神科外来診療室での診療への陪席し、必要に応じて医師からの指示による説明書の作成と患者への説明を行い、また精神科入院病棟での担当薬剤師に付き添い、入院時の服薬指導などを体験する実習を行った。

○ 多職種連携教育プログラム

- ・ 1年次生及び6年次生を対象として、医学部、歯学部、薬学部合同での多職種連携教育を実施した。
- ・ 1年次生は災害医療など3つのテーマにつきチームで議論した。6年次生は学科によって学年は異なるが、実習後の学生が集い2つのシナリオについてチームで議論し、医療チームとして模擬患者への説明を実施した。

<山陽小野田市立山口東京理科大学>

○ アクティブラーニング方式による総合医療薬学プログラム **(*)**

- ・ 3年次生、4年次生を対象として、必修科目「総合医療薬学1～7」におけるSGDを中心とするアクティブラーニングを取り入れた教育システムの開発し、実施した。
- ・ 代表的8疾患に関係したシナリオをもとにした文献調査、グループディスカッションから、発表資料作成、成果報告、質疑応答までの一連を繰り返すことにより、疾病と薬の理解だけでなく、思考的問題解決能力、コミュニケーション能力の醸成を図った。
- ・ SDG室とプレナリー室にはアクティブラーニングに相応しい装置として、講堂放送システムなどを設置することにより、より高度の成果が期待できる。
- ・ 本年度から卒業研究が開始され、前述の総合医療薬学で養った思考的問題解決能力等を基に各研究室においてテーマを設定し主体的に研究を行った。

<徳島大学>

○ 第9回学部連携PBLチュートリアル

- ・ 高学年の薬学部、医学部、歯学部の学生を対象として、チーム医療の実践に必要な能力・資質を身につけさせることを目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案するPBLチュートリアルを実施した。

○ 2021年度 症例解析総合演習

- ・ 薬学部6年生を対象として、薬剤師に必要とされる基本的な臨床思考プロセスの修得を目的として、薬学部で履修してきたコアカリキュラム及び臨床実務実習での知識・経験を統合し、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討する演習を実施した。

<九州大学>

○ 厚生労働省及びPMDAオンライン見学会 (主幹校主催プログラム) **【連携】**

- ・ 学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。
- ・ 厚生労働省や関連教育研究機関・組織における医療行政やレギュラトリーサイエンスに関するインターンシップ等を開発・実施することにより、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師の養成が期待できる。

○ 多職種連携プログラム

- ・学部生を対象として、医学部医学科・保健学科、歯学部との合同演習として「臨床倫理」「インフォームドコンセント」「チーム医療演習」を実施し、ロールプレイやSGD などを通じて、問題解決能力の醸成のみならず、異職種における専門性の相互理解や他のコメディカルとのコミュニケーション能力の向上を図った。

<熊本大学>

○ メディポリス国際陽子線治療センター研修

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬剤師の観点から最新のがん治療の動向・現状を把握し、個々の患者に最適ながん治療を実施するための知識を習得することを目的として、がん治療における最先端の陽子線治療を実施している「メディポリス国際陽子線治療センター」のご協力のもと、特別講演会・オンライン施設見学、先輩薬剤師のキャリアパス・意見交換会などの研修を実施した。

○ リーダーシップを学ぶ研修

- ・大学院生を対象として、外部講師を招聘しキャリア形成や研究・ビジネス・社会貢献に必要なセルフリーダーシップ、チームリーダーシップ、グローバルリーダーシップを学び、実践的スキルを習得する研修を実施した。

○ 医学部医学科臨床実習（ポリクリ）と連携した参加型実務実習

- ・学部生を対象として、熊本大学病院の薬剤部と連携して、病院実務習の一環として7内科診療科のうち3～4診療科の医学科臨床実習に医学部生と一緒に参加（合計3週間）し、また中央検査部での検査実施や看護部での病棟看護研修（各1日）を実施した。
- ・本プログラムは2010年度から開始し、本年度で122目の実施となる。

2) その他（大学としての取組等）

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシスト・PLUSの養成プログラム

- ・東北大学で取り組んできた高度専門薬剤師養成とスーパージェネラリスト・ファーマシスト養成事業を拡大し、革新的医薬品評価開発支援と高齢化社会の新たな医療を担うハイレベルな薬剤師スーパージェネラリスト・ファーマシスト・PLUSを育成するプログラムを実施した。

○ 東北次世代がんプロ養成プラン

- ・文部科学省が実施する「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」に東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学が連携する東北次世代がんプロフェッショナル養成推進プランを実施した。
- ・このプランは、第2期がんプロ（正式名：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）からの得られた成果からがん医療における新たな課題、ニーズが生まれ、これらの問題に対応すべくプログラムを進める。

○ 東北大学未来型医療創造卓越大学院プログラム

- ・医学系、歯学、薬学、生命科学、情報科学、経済学、文学、教育学、医工学に所属する学生が、未来の医療をより優れたものへと変革する人材の育成を目指し、データ（Data）と技術（Technology）を駆使して未来の社会（Society）の課題解決に取り組み、超高齢社会である東北地方、日本そして世界の医療・福祉の理想を求めて学習するプログラムを実施した。

<名古屋市立大学>

○東海薬剤師生涯学習センタープログラム 公立大学連携薬剤師生涯学習講座【連携】 （*）

- ・静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修を実施した（2015年度から開催を継続）。本学学部学生、大学院生も参加（薬剤師受講は有料、学生・大学院生は無料）。
 - ・講義は「臨床現場に必要な薬学最新基礎知識」に特化したもので、実習・演習は薬学部の新しい授業を薬剤師向けに活用した研修を実施した。
 - ・新型コロナウイルス感染症対応としてオンライン（Zoom）による遠隔受講を採用し、年間のプログラムを感染症の状況を勘案し日程を随時変更しながら全てのプログラムを実施した。
 - ・3年次生は、授業の一環として基礎薬学演習に薬剤師と一緒に演習を行うプログラムを3回実施し（Zoomによる遠隔演習）、学生は薬剤師としての生涯研鑽の重要性を理解するとともに、参加薬剤師は新しい学習方法の体験とその効果を実感できるプログラムとした。
- ◇ 参加人数：薬剤師144名、学部学生37名（延べ）

2. 国際医療薬学教育研究推進プログラム

本プログラムでは、高度な薬学専門性・研究力に加え、柔軟な俯瞰力、領域を超えた創造力を修得し、国際的な創薬研究や医療の発展に指導的な立場で貢献できる高度先導的薬剤師として、グローバルな視野・立場で国際的な研究機関や医療機関、行政機関での活躍や、学際融合・分野横断型研究の推進ができる薬学研究者や薬剤師、さらには世界の生命科学研究、薬学研究をリードする薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、本事業はその発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「国際医療薬学教育研究推進プログラム」については、国公立大学における豊富な国際的な教育研究交流、特に欧米等の最先端の生命科学研究を実施している機関・大学との交流実績を基盤として実施する。実践的語学教育プログラム（共通）をもとに、学部については、国際学会への参加、学生自主学修としての海外研修・イン

ターンシッププログラム、大学院博士課程については、アドバンスト国際共同研究プログラムによる海外研究機関や大学における研究活動の実施が挙げられる。

以下、参画大学の事業成果報告をもとに、年度毎に、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては、別添の資料が提出されているが、紙面の関係上本報告書には掲載していない。これらについては、本事業のホームページあるいは各実施大学のホームページ等で公開しているので、参照いただきたい。

【2016年（平成28年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<京都大学>

○ 「International & Innovative研究者の育成」事業

- ・学部生及び大学院生を対象として、国際研究交流を目的として、共同研究のための海外研究機関訪問（短期留学）、海外研究機関におけるセミナー発表、海外での国際学会発表にあたって旅費および滞在費の支援を行う。

<岡山大学>

○ 成均館大学薬学校での英語開講授業の体験的聴講事業（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、韓国成均館大学薬学校での英語で開講されている薬学専門教育科目を体験的に聴講し、併せて同校の学生との交流を行った。
- ・「国際連携薬学セミナー（0.5単位）」として実施した。
- ◇ 参加人数：薬学科学生1名、製薬科学科学生・博士前期課程学生3名

○ 全学対象で実施する語学研修のための短期留学事業

- ・学部生（学年を問わず）を対象として、オーストラリア等で語学研修短期留学を実施した。グローバル人材育成コースを履修する学生は必須科目とした。
- ◇ 参加人数：学部生4名

<九州大学>

○ 日本学生支援機構海外留学支援制度を利用した国際交流（1）

国際化に対応できる薬学研究者の育成プログラム（台湾への派遣）

- ・学部生及び大学院生を対象として、台北医学大学薬学部へ3週間程度派遣し、英語による講義の受講、研究室での研究活動、論文作成および附属病院等での実習、フィールドワークを実施した。

◇ 参加人数：創薬科学科4年次生、臨床薬学科5年次生、6年次生、修士課程学生 合計6名

○ 日本学生支援機構海外留学支援制度を利用した国際交流（2）

創薬のグローバル化を見据えた研究者育成プログラム（台湾からの受入）

・台北医学大学薬学部からの学生を3週間程度受入れ、研究室での実験、実習や付属施設でのフィールド

ドワークを実施した。

◇ 参加人数：台湾医学大学薬学部生3名

○ 日本学生支援機構海外留学支援制度を利用した国際交流（3）

グローバルに活躍できる薬学生の育成プログラム（タイへの派遣）

・学部生を対象として、タイの4大学（チュラロンコン大学、マヒドン大学、コンケン大学、ナレスア

ン大学）薬学部へ3週間程度派遣し、英語による講義の受講、研究室での研究活動および論文作成等を実施した。

◇ 参加人数：創薬科学科4年次生5名

○ 日本学生支援機構海外留学支援制度を利用した国際交流（4）

次世代の薬学を担う人材の育成プログラム（タイからの受入）

・タイの4大学（チュラロンコン大学、マヒドン大学、コンケン大学、ナレスアン大学）薬学部から学

生を受け入れ、研究室での実験、実習や付属施設へのフィールドワークを行う（90日以内）。

◇ 参加人数：タイ4大学の薬学部生16名

2) その他（大学としての取組等）

<金沢大学>

○ 大学間交流協定及び部局間交流協定（*）

・学部生を対象として、金沢大学薬学系・瀋陽薬科大学（中国）・釜山大学校薬学大学（韓国）の部局間交流協定に基づいて、金沢大学・釜山大学校・瀋陽薬科大学薬学系国際合同シンポジウムに教員と学生を派遣した。

<京都大学>

○ ソウル大学—京大—阪大合同シンポジウム（SKOシンポジウム）

・三大学間で結ばれている交流協定に基づいて、それぞれの留学生交換や相互訪問、共同研究の実施などを通じて交流を深めている。定期的に合同シンポジウムを開催しており、大学院生に発表の機会を与えた。

【2017年（平成29年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 海外研修プログラム：「台北医学大学との学生交流」 (*)

- ・学部生及び大学院生を対象として、今年度で3年継続しているプログラムである。大学院生を対象として、台北医学へ2週間派遣した。
- ・台北医学大学薬学部の研究室を見学、各自の研究内容に関する発表と意見交換を行った。
- ・台北医学大学の附属病院及び提携病院で、主に薬剤師が行っている業務や臨床研究部門を見学し、薬剤師業務や医療・保険制度の両国間の違い等について意見交換を行った。
- ・東北大学においても同様の研修を行っており、合同の成果発表会を実施した。

◇ 参加人数：臨床薬学専攻博士課程学生2名

<富山大学>

○ ニュージーランド語学研修 (*)

- ・学部生を対象として、外国人教員が帯同の上、ニュージーランドでホームステイをしながらの語学研修を実施した。

○ 南カリフォルニア大学における臨床薬学研修 (*)

- ・南カリフォルニア大学でのPharm Dコースの一部を体験した。

<金沢大学>

○ 薬学類・創薬科学類 シンシナティ短期留学プログラム

- ・学部生を対象として、スーパーグローバル大学創成支援構想と方針に従って、海外派遣・留学プログラムやインターンシップ先等の開拓と、単位認定に関するカリキュラム制度を構築した。
- ・2年次生の第2クォーターに、学生が海外研修へ行くことを推奨している。短期留学プログラムは単位化されており、他の科目の履修に大きな影響を与えず海外研修を行うことができる。
- ・本プログラムにより、アメリカ合衆国オハイオ州シンシナティ大学 ELS Language Centers シンシナティ校への2週間の短期留学を実施した。現地で英語研修を受け、現地の病院・薬局、薬学系学部の訪問、University of Cincinnati Medical CenterやThe University of Cincinnati, College of Medicineなど薬学系学部や病院・薬局等を訪問し、施設見学やスタッフ・学生との交流を行った。

◇ 参加人数：学部生10名

<静岡県立大学>

○ 薬学英语

- ・学部生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任講師）による薬学領域における英語コ

コミュニケーションを習得する教育を行った。

○ 卒業研究発表を英語でチャレンジ

- ・学部生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任講師）のサポートを得て、希望者について研究発表を英語で行った。

○ 科学英語

- ・大学院生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任講師）による国際学会での発表支援をカリキュラムの中で実施した。

<京都大学>

○ 海外自主学修プログラム（香港） 【連携】

- ・参画大学連携の海外自主研修プログラムとして、実地体験を通じて海外と日本における薬学教育や医療制度の違いを考えグローバルな視点を身につけるために、香港中文大学及び香港特別行政区内の公立病院・地域薬局を訪問した。
- ・香港中文大学では、授業に体験参加するとともに、学生主体で日本での薬学教育や医療制度を説明し、両国の違いについて先方の教員やインターン修了生と意見交換を行った。
- ・公立病院および地域薬局では、薬剤師業務について実地調査し、医療制度の違いと関連付けながら業務内容の違いに関して理解を深めた。

◇ 参加人数：教員2名、学生8名（京都大学6名、千葉大学2名）

<岡山大学>

○ 成均館大学薬学校での英語開講授業の体験的聴講事業 (*)

- ・学部生及び大学院生を対象として、韓国成均館大学薬学校での英語で開講されている薬学専門教育科目を体験的に聴講し、併せて同校の学生との交流を行った。
- ・「特殊講義（国際連携薬学人材育成プログラム）（2単位）」として実施した。

◇ 参加人数：薬学科学生2名、製薬科学科学生・博士前期課程学生3名

○ 全学対象で実施する語学研修のための短期留学事業

- ・学部生（学年を問わず）を対象として、オーストラリア等で語学研修短期留学を実施した。グローバル人材育成コースを履修する学生は必須科目とした。

◇ 参加人数：学部生3名

○ 日韓合同セミナー「薬学系国際連携博士学位プログラム：構想から実現へ」 (*)

- ・大学院生を対象として、シンポジウム形式のセミナーと合同の企業見学訪問を実施した。

<徳島大学>

○ 海外とのビデオカンファレンスなどを通じたグローバル薬学教育 (*)

- ・学部生を対象として、本学と提携関係にある米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部との交流事業とし実施した。
- ・5年次生、6年次生が中心となって、1つの症例について検討会とインターネット回線を用いたビデオカンファレンスを3～4回行った。

◇ 参加人数：16名

2) その他（大学としての取組等）

<金沢大学>

○ 大学間交流協定及び部局間交流協定

- ・金沢大学薬学系・瀋陽薬科大学（中国）・釜山大学校薬学大学（韓国）の部局間交流協定に基づき、瀋陽薬科大学で開催された国際合同シンポジウムに教員と学生を派遣した。

<静岡県立大学>

○ 日中健康科学シンポジウム

- ・大学院生を対象として、2年に1回、本学と浙江省医学科学院との共催で日中健康科学国際シンポジウムを開催し、大学院生が口頭発表を行った。
- ・本年度は浙江省医学科学院で開催した。

○ 薬食国際カンファレンス

- ・大学院生を対象として、2年に1回、本学大学院薬食研究推進センターが中心となり、健康食品や代替医療に関する国際会議を開催し、大学院生がポスター発表を行った。

<名古屋市立大学>

○ 台北医科大学薬剤部見学

- ・学部生を対象として、九州大学主催の国際研修会に参加した。
- ・病院(TMU)及び近隣病院(萬芳病院、双和病院)を見学後、各病院の指導薬剤師と意見交換を行った。

◇ 参加人数：6年次生1名

<広島大学>

○ マレーシアなど海外大学との交流

- ・マレーシアInternational Medical University薬学部など、海外大学との派遣、受け入れ、共同研究などの交流を行う。

<熊本大学>

○ 米国ニューメキシコ大学（UNM）海外連携教育プログラムの開発

- ・UNMとの生命科学研究を支える大学院教育プログラムの開発を実施した。

○ 「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」（*）

- ・本学薬学部に、フィリピン大学ロスバニョス校獣医学部の学生10名と教員1名を迎えて、熊本大学、さらに県内各所において最新の医薬や獣医学さらにそれらに関連する研修を実施した。

- 「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」 **(*)**
 - ・中国薬科大学の学部生4名、大学院生4名、教員2名を招聘し、熊本大学を拠点とする先端的施設や教育・研究に触れ、中国の薬学教育・研究を牽引する人材の育成に寄与する研修プログラムを実施した。
- 頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
腎臓発生生物学の最先端技術を活用した難治性腎疾患治療戦略の構築 **(*)**
 - ・2016年より、学術振興会の事業「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム（腎臓発生生物学の最先端技術を活用した難治性腎疾患治療戦略の構築 H28-H30）」に採択され、熊本大学薬学部を起点としたチームと海外の共同研究チーム（ジョージア州立大学、エール大学、米国国立ガン研究所）との連携のもと、研究・教育の相互交流を図った。
 - ・2017年度は、本学部の薬剤師教育の主要な指導者などを海外に派遣し、高度な薬剤師教育のための補強を図った。
- 医療人養成教育研究のための教員の国際交流 **(*)**
 - ・2018年度以降の大学院医療薬学専攻授業科目として「海外臨床研修プログラム」の構築に向けて教員の人的交流を開始した。
 - ・本年度は、ニューメキシコ大学薬学部等から3名の教員、研究者を招聘し、特別講演会や本学部の4年生を対象とした「**Team-based Learning**」の実践やその評価方法、本学部の授業の参観など、教員の人的な交流を行った。
- 海外臨床研修プログラムの構築
 - ・ニューメキシコ大学薬学部との教員の人的交流を踏まえて、相互理解のもとに、2018年度以降の大学院医療薬学専攻授業科目として「海外臨床研修プログラム」の構築に向けたと取組を開始した。

【2018年（平成30年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

- 海外研修プログラム：「台北医学大学との学生交流」 **【連携】**
 - ・学部生及び大学院生を対象として、今年度で4年継続しているプログラムである。
 - ・台北医学大学薬学部の研究室を見学、各自の研究内容に関する発表と意見交換を行った。
 - ・台北医学大学の附属病院及び提携病院で、主に薬剤師が行っている業務や臨床研究部門を見学し、薬剤師業務や医療・保険制度の両国間の違い等について意見交換を行った。
 - ・東北大学においても同様の研修を行っており、合同の成果発表会を行った。
- ◇ 参加人数：臨床薬学専攻博士課程学生1名、6年次生1名

<千葉大学>

- 実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム（*）
 - ・学部生を対象として、2012～2016年度実施の文科省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組として実施していたプログラムを2018年度も継続して実施した。
 - ・千葉県内三薬科大学が特徴的に有する教育プログラムを相互に受講した。

<富山大学>

- ニュージーランド短期英語研修プログラム（*）
 - ・学部生及び大学院生を対象として、本学の外国人教員が帯同の上、ニュージーランドでホームステイをしながらの語学研修を実施した。
 - 国公立3大学連携事業：南カリフォルニア大学における臨床薬学研修（*）
 - ・学部生及び大学院生を対象として、国公立3大学（京都、名古屋市立、富山）が連携して、南カリフォルニア大学でのPharm Dコースの一部を体験する臨床薬学研究を実施した。
 - ・韓国、中国の学生との協働作業や研修を通して、密な国際交流が可能となった。
 - 薬学類・創薬科学類 シンシナティ短期留学プログラム
 - ・スーパーグローバル大学創成支援の構想と方針に従って、海外派遣・留学プログラムやインターンシップ先等の開拓と、単位認定に関するカリキュラム制度設計を行った。
 - ・学部生を対象として、2年次の第2クォーターに海外研修へ行くことを推奨している。短期留学プログラムは単位化されており、他の科目の履修に大きな影響を与えず海外研修を行うことができる。
 - ・アメリカ合衆国オハイオ州シンシナティ大学 ELS Language Centers シンシナティ校、University of Cincinnati Medical Center、The University of Cincinnati, College of Medicineなどの薬学系学部や病院・薬局等を訪問し、施設見学やスタッフ・学生との交流や質疑応答などを行った。
- ◇ 参加人数：10名

<静岡県立大学>

- 薬学英语プログラム
 - ・学部生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学領域における英語コミュニケーションを習得する教育を実施した。
- イングリッシュリサーチプレゼンテーションプログラム
 - ・学部生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学研究発表を英語で行う際の実用的なトレーニングを実施した。学生は自ら行ってきた卒業研究に基づいて英語での発表資料の作成と発表練習を行った。
- 科学英語プログラム
 - ・大学院生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による国際学会での発表支援をカリキュラムの中で実施した。

<名古屋市立大学>

- 国公立3大学連携事業：南カリフォルニア大学における臨床薬学研修【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、国公立3大学（京都、名古屋市立、富山）が連携して、南カリフォルニア大学でのPharm Dコースの一部を体験する臨床薬学研究を実施した。
 - ・韓国、中国の学生との協働作業や研修を通して、密な国際交流が可能となった。
- ◇ 参加人数（名古屋市立大学）：学部生2名

<京都大学>

○ 海外自主学修プログラム in 香港【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、実地体験を通じて海外と日本における薬学教育や医療制度の違いを考え、グローバルな視点を身につけるために、香港中文大学及び香港特別行政区内の公立病院・地域薬局を訪問し、研修を行った。
 - ・香港中文大学では、授業に体験参加するとともに学生主体で日本での薬学教育や医療制度を説明し、両国の違いについて先方の教員やインターン修了生と意見交換を行った。公立病院、地域薬局、ファーマシューティカルケアNPO法人では、薬剤師業務について実地調査し、医療制度の違いと関連付けながら業務内容の違いに関して理解を深めた。
- ◇ 参加人数：教員2名（京都大学・富山大学各1名）、学生5名（京都大学2名、北海道大学1名、富山大学2名）

○ 国公立3大学連携事業：南カリフォルニア大学における臨床薬学研修【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、国公立3大学（京都、名古屋市立、富山）が連携して、南カリフォルニア大学でのPharm Dコースの一部を体験する臨床薬学研究を実施した。
 - ・韓国、中国の学生との協働作業や研修を通して、密な国際交流が可能となった。
- ◇ 参加人数（京都大学）：教員1名、学部生3名

○ 南カリフォルニア大学薬学部臨床実習研修事後ワークショップ【連携】

- ・本ワークショップは、アメリカ南カリフォルニア大学(USC)での研修を受けて、研修での学習や経験に関する発表を通じて理解の深化を図るとともに、英語によるプレゼンテーション能力の向上を目指して行ったものである。USCプログラムに参加した富山大学・名古屋市立大学・京都大学の学生6人に加え、各大学の担当教員、および特別ゲストとして香港中文大学のKeary Rui Zhou先生及びChui Ping Lee先生を招いて実施した。USC、USCとの交流実績についての紹介に続き、研修に参加した学生から、研修で見学した薬局や病院、USCでの薬学教育プログラム、各国での薬学教育の違いなど様々な視点からの発表が行われ、Zhou先生およびLee先生から国際的な薬学教育、薬剤師教育・卒後教育システムについての講演があった。

<岡山大学>

○ フィリピン共和国における高度先導的薬剤師研修プログラム（*）

- ・学部学生を対象として、途上国での薬学教育および薬剤師業務の高度化に貢献できる国際性に富んだ高度先導的薬剤師の養成を大きな目標として掲げ、薬学科学生5名をフィリピン国内の薬学系大学の中でもトップレベルの薬学専門教育を実施しているUniversity of San Carlos（USC、岡山大学と大学間交流協定を締結済）に派遣した。

- ・大学での薬学教育の視察、セブ・シティ市内の中核病院であるPerpetual Succour Hospital (PSH) 及び同市内薬局での研修を実質5日間実施した。
 - ・各研修参加学生にはUSC薬学科学生のバディが伴い、学内の講義・演習に共に参加することで、学生が直接的に同国の薬学教育を実体験した。
 - ・最終日には研修参加学生による英語でのプレゼンテーションを実施した。
- ◇ 参加人数：4年次生3名、6年次生2名、教員3名、薬剤師1名

<広島大学>

○ 米国薬学部臨床実習研修

- ・学部学生を対象として、テネシー大学、マーサー大学を訪問し、臨床実習や講義、及び各地域の病院・薬局薬剤師業務の研修に参加した。日本の薬学教育及び病院薬剤師の役割についてのプレゼンテーションも行うなど、活発な意見交換も行った。
- ・テネシー大学における研修では、他国からの学生や臨床薬剤師も同じ研修に加わることで、米国のみならずその他の国の薬剤師教育や臨床業務についても議論し、状況の共有と大学間交流ができた。

<徳島大学>

○ 2018年度 徳島大学薬学部—米国ノースカロライナ大学 (UNC) 薬学部症例検討ビデオカンファレンス

- ・学部生を対象として、学部間協定校である米国ノースカロライナ大学 (UNC) 薬学部との交流事業の一環として、ビデオ会議システムを活用し、両校学生によるリアルタイムでの症例検討会を例年実施している。
- ・本年度は、4回のビデオカンファレンスを実施し、英語での症例検討を行うことで、臨床におけるグローバルな考え方の必要性について学んだ。

◇ 参加人数：学部生20名

<長崎大学>

○ 学生自主学修プログラム：アメリカ合衆国ニューメキシコ大学薬学部研修 **【連携】**

- ・大学院生を対象として、アメリカ合衆国アルバカーキ市のニューメキシコ大学薬学部を1週間訪問し、英語による授業の聴講、附属病院Pain Centerおよび薬剤部の訪問、UNM Poison Control Centerや地域薬局の訪問などを通して、日本とアメリカ合衆国における薬剤師の職能の共通点および差異について学ぶとともに、英語コミュニケーション能力の涵養を行った。

◇ 参加人数：長崎大学博士課程学生2名、千葉大学博士課程学生1名、
教員（長崎大学）1名

<熊本大学>

○ 米国ニューメキシコ大学 (UNM) 臨床薬学研修 **(*)**

- ・学部生を対象として、UNMにおける臨床薬剤師研修及びアメリカにおける薬事行政を理解するための研修を実施した。

○ 中国薬科大学 (China Pharmaceutical University、CPU) 臨床薬学教育研修 (*)

- ・学部生を対象として、CPUにおける臨床薬学教育研修及び中国の医療制度を理解するための研修を実施した。

○ 米国ジョージア州立大学 (GSU) 医療薬学研究推進・海外留学プログラム (*)

- ・大学院生を対象として、GSUにおけるグローバルな医療薬学研究を推進するための研究留学プログラムを実施した。

2) その他 (大学としての取組等)

<千葉大学>

○ グローニンゲン大学 (オランダ) の教育プログラム視察 【連携】

- ・国公立大学の学部高学年学生及び大学院生を対象とした高レベルの海外臨床研修プログラムの開発に向けて、大阪大学の教員、千葉大学、名古屋市立大学の若手教員がオランダ・グローニンゲン大学を訪問し、研修プログラム構築に向けて同大学の担当教員との面談、研究活動の紹介、教育プログラムの紹介及び薬学部、附属病院、研究所等の見学を実施した。

◇ 参加人数：千葉大学・大阪大学・名古屋市立大学教員各1名

<静岡県立大学>

○ 日中健康科学シンポジウム

- ・大学院生を対象として、本学と浙江省医学科学院との共催で日中健康科学国際シンポジウムを開催し、大学院生が口頭発表演者として参加している。H30年度は、2018年11月に静岡市で開催。

○ 薬食国際カンファレンス

- ・大学院薬食研究推進センターが中心となり、健康食品や代替医療に関する国際会議を開催し、大学院生がポスター発表を行った (隔年開催)。

<名古屋市立大学>

○ グローニンゲン大学 (オランダ) の教育プログラム視察 【連携】

- ・国公立大学の学部高学年学生及び大学院生を対象とした高レベルの海外臨床研修プログラムの開発に向けて、大阪大学の教員、千葉大学、名古屋市立大学の若手教員がオランダ・グローニンゲン大学を訪問し、研修プログラム構築に向けて同大学の担当教員との面談、研究活動の紹介、教育プログラムの紹介及び薬学部、附属病院、研究所等の見学を実施した。

◇ 参加人数：千葉大学・大阪大学・名古屋市立大学教員各1名

<岐阜薬科大学>

○ アッセンハイマー慶子先生講演会

- ・ドイツのドイツセントラル薬局開設者であるアッセンハイマー慶子先生を招へいしてかかりつけ薬剤師の環境に関する講演を実施し、教員、学生と共に本件についての質疑応答、意見交換を行った。

<京都大学>

○ 南カルフォルニア大学薬学部臨床実習研修事後ワークショップ 【連携】

- ・本ワークショップは、アメリカ南カリフォルニア大学（USC）での研修を受けて、研修での学習や経験に関する発表を通じて理解の深化を図るとともに、英語によるプレゼンテーション能力の向上を目指して開催した。
- ・USCプログラムに参加した富山大学・名古屋市立大学・京都大学の学生6人に加え、各大学の担当教員及び特別ゲストとして香港中文大学のKeary Rui Zhou先生及びChui Ping Lee先生を招いて実施した。
- ・USCとの交流実績についての紹介に続き、研修に参加した学生から、見学した薬局や病院、USCでの薬学教育プログラム、各国での薬学教育の違いなどについて発表が行われ、Zhou先生及びLee先生から国際的な薬学教育、薬剤師教育・卒後教育システムについての講演があった。

<広島大学>

○ マレーシアとの交流プログラム

- ・International Medical University薬学部など、海外大学との派遣、受け入れ、共同研究などの交流を行った。今後も継続して実施する予定である。

【2019年（平成31年／令和元年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 海外研修プログラム：「台北医学大学との学生交流」 【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、今年度で5年継続しているプログラムである。
- ・台北医学大学薬学部の研究室を見学、各自の研究内容に関する発表と意見交換を行った。
- ・台北医学大学の附属病院及び提携病院で、主に薬剤師が行っている業務や臨床研究部門を見学し、薬剤師業務や医療・保険制度の両国間の違い等について意見交換を行った。
- ・東北大学においても同様の研修を行っており、昨年に引き続き合同の成果発表会を行なった。

◇ 参加人数：臨床薬学専攻博士課程学生1名、6年次生1名

<富山大学>

○ ニュージーランド語学研修

- ・学部生を対象として、ニュージーランドでホームステイをしながらの語学研修を実施した（外国人教員が帯同）。

○ 南カリフォルニア大学における臨床薬学研修

- ・学部生及び大学院生を対象として、南カリフォルニア大学でのPharm Dコースの一部を体験する臨床薬学研修を実施した。

<金沢大学>

○ 国際医療人育成プログラム

- ・学部生及び大学院生を対象として、金沢大学の環境と健康に関する豊富な研究・教育における実績を活かして、1) 疾病を誘発する環境要因を明らかにし疾病予防に結びつけるための高度な研究力の養成、2) 日本人学生も含めた協同学習による国際コミュニケーション能力の涵養、3) 国際機関や各国政府・自治体、研究機関、企業等で環境計測、健康影響評価、予防施策を実践・指導できる人材の育成を目的とした教育研究プログラムを実施した。

○ 短期留学プログラム

- ・学部生を対象とした単位認定プログラムとして、英語力を伸ばし、専攻に関わるグローバルな視野を広げることを目的とした短期留学プログラムを実施した。金沢大学薬学類・創薬科学類の2年次生の第2クォーターに実施した。
- ・本プログラムは、1) 英語によるコミュニケーション力の醸成、2) 海外における薬学教育の理解、3) 英語プレゼンテーションの実践、4) 異文化体験を目的としたものである。

<静岡県立大学>

○ アリゾナ大学薬学部研修

- ・学部生を対象として、大学間協定校であるアリゾナ大学薬学部を訪問して、米国の薬剤師業務、薬学教育や医療制度について学ぶ研修を実施した。

◇ 参加人数：教員1名、5年次生2名

○ 短期語学留学プログラム

- ・学部生を対象として、カナダビクトリア大学イングリッシュ・ランゲージ・センターへの短期間語学留学を行った。

◇ 参加人数：学部生2名

○ 薬学英语プログラム

- ・学部生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学領域における英語コミュニケーションを習得する教育を実施した。

○ イングリッシュリサーチプレゼンテーションプログラム

- ・学部生及び大学院生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学研究発表を英語で行う際の実用的なトレーニングを実施した。
- ・学部生は自ら行ってきた卒業研究に基づいて英語での発表資料の作成と発表練習を行った。

○ 科学英語プログラム

- ・大学院生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による国際学会での発表支援をカリキュラムの中で実施した。

<京都大学>

○ 海外自主学修プログラム in タイ 【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、現地体験を通じて海外と日本における薬学教育や医療制度の違いを考え、グローバルな視点を身につけるために、タイのSilpakorn大学および病院・地域薬局などの施設を訪問した。
 - ・Silpakorn大学では、タイの医療費、保険制度、医薬品選定制度、医療制度に関する講義を受け、大学内に開設された薬局において現地の薬学部6回生と教育制度や薬局で取り扱う医薬品における両国間の違いについてディスカッションをした。
 - ・Nakorn-Parthom州FDAやPrachote Plengwittaya (受託分析・知財管理)、Organics Cosme社などの見学では、医療機関以外での薬剤師の職能や役割について理解を深めた。
- ◇ 参加人数：教員1名（京都大学）、学生4名（京都大学2名、熊本大学2名）

<岡山大学>

○ フィリピン共和国における高度先導的薬剤師研修プログラム 【連携】（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、徳島大学と連携して、発展途上国での薬学教育および薬剤師業務の高度化に貢献できる国際性に富んだ高度先導的薬剤師の養成を大きな目標として掲げ、フィリピン・University of San Carlos (USC：岡山大学と大学間交流協定を締結済)における5日間の研修プログラムを実施した。
 - ・参加学生の関心の高い授業への参加とUSC学部学生の実習の指導補助に加え、セブ・シティ市内の中核病院であるPerpetual Succour Hospital (PSH) と併設されているセブ・ガン研究所、さらに同市内薬局3店舗の視察など、実質5日間の海外研修を実施した。
 - ・最終日には研修参加学生による英語でのプレゼンテーションを実施した。岡山大学薬学部生には、「特殊講義（国際連携薬学人材育成プログラム）」の単位（2単位）を認定した。
- ◇ 参加人数：大学院生1名、学部生4名（岡山大学3名、徳島大学1名）、教員4名

○ タイ王国（マヒドン大学・ブラパー大学 その他医療機関）研修プログラム（*）

- ・学部生を対象として、近年の経済発展が目覚ましく、医療分野においても医療技術の向上に伴い、医療ツーリズム事業を政府主導で展開しているタイの大学、病院、薬局、JICA・JASSO、日系製薬企業を訪問し、タイにおける薬学研究、医療人材育成、医療ビジネス、社会保障対策の現状を学ぶ研修プログラムを実施した。
- ◇ 参加人数：3年次生1名

<広島大学>

○ 米国薬学部臨床実習研修

- ・学部生及び大学院生を対象として、テネシー大学、マーサー大学を訪問し、臨床実習や講義の受講、及び各地域の病院・薬局薬剤師業務の研修を実施した。また、日本の薬学教育及び病院薬剤師の役割についてのプレゼンテーションと意見交換を行った。
- ・テネシー大学における研修では、他国からの学生や臨床薬剤師も同じ研修に加わることによって、米国のみならず、その他の国の薬剤師教育や臨床業務についても議論し、状況の共有と大学間交流を行った。

<徳島大学>

○ 2019年度 徳島大学薬学部—米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部症例検討ビデオカンファレンス

- ・学部生を対象として、学部間協定校である米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部との交流事業の一環として、ビデオ会議システムを活用し、両校学生によるリアルタイムでの症例検討会を例年実施している。
- ・本年度は、4回のビデオカンファレンスを実施し、英語での症例検討を行うことで、臨床におけるグローバルな考え方の必要性について学んだ。

◇ 参加人数：学部生26名

○ フィリピン共和国における高度先導的薬剤師研修プログラム【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、岡山大学と連携して、発展途上国での薬学教育および薬剤師業務の高度化に貢献できる国際性に富んだ高度先導的薬剤師の養成を大きな目標として掲げ、フィリピン・University of San Carlos（USC：岡山大学と大学間交流協定を締結済）における5日間の研修プログラムを実施した。
- ・参加学生の関心の高い授業への参加とUSC学部学生の実習の指導補助に加え、セブ・シティ市内の中核病院であるPerpetual Succour Hospital（PSH）と併設されているセブ・ガン研究所、さらに同市内薬局3店舗の視察など、実質5日間の海外研修を実施した。
- ・最終日には研修参加学生による英語でのプレゼンテーションを実施した。

◇ 参加人数：大学院生1名、学部生4名（岡山大学3名、徳島大学1名）、教員4名

<長崎大学>

○ 学生自主学修プログラム：アメリカ合衆国ニューメキシコ大学薬学部研修

- ・学部生を対象として、アメリカ合衆国アルバカーキ市のニューメキシコ大学薬学部を訪問した。ニューメキシコ州は薬剤師の活動範囲が全米で最も広い州であり、病院や薬局などの施設見学や講義を通して、薬剤師が最も身近な医療提供者としてどのように活躍しているのかを学んだ。
- ・薬剤師の教育を担う薬学部における授業や実習などを体験し、日本とアメリカ合衆国における薬剤師の職能や教育の共通点および差異について学んだ。
- ・多様な背景を持った薬学部生と意見交換し、現地の文化に触れることで、英語でのコミュニケーション能力、異文化や人種などの多様性を理解する能力、主体的な態度を涵養した。

◇ 参加人数：長崎大学5年次生1名、広島大学5年次生1名、教員1名（長崎大学）

2) その他（大学としての取組等）

<静岡県立大学>

○ 静岡県立大学・コンケン大学合同シンポジウム

- ・タイ・コンケン大学との合同シンポジウムを静岡県立大学で開催し、薬学部教員と大学院学生が英語での発表を行った。

○ 静岡県立大学・バンドン工科大学合同シンポジウム

- ・インドネシア・バンドン工科大学との合同シンポジウムを質丘県立大学で開催し、薬学部教員と大学院学生が英語での発表を行った。

○ US-COIL：大学の世界展開力強化事業

- ・カリフォルニア大学デービス校健康科学学部の外部講師と薬学部教員による講義をオンラインによる遠隔教育（COIL型教育）により実施した。
- ・本事業は上智大学・お茶の水女子大学との3大学で実施しており（2018～2022年度）、2019年度はカリフォルニア大学デービス校の大学院生及び上記2大学からも参加して、オンラインで実施した。

○ カリフォルニア大学デービス校大学間協定更新記念講演会

- ・カリフォルニア大学デービス校副学長を外部講師として招へいし（コロナウイルス感染拡大によりウェビナーに変更）記念講演会を実施した。

<岐阜薬科大学>

○ ドイツの薬局事情を学ぶ研修会

- ・ドイツにおける薬局・かかりつけ薬剤師の事情を学習するために、日本コミュニティファーマシー協会代表理事の吉岡ゆうこ先生と南ドイツロッテンブルク市で薬局を経営するアッセンハイマー慶子先生を招き研修会を行った。

<広島大学>

○ マレーシアなど海外大学との交流

- ・マレーシアInternational Medical University薬学部など、海外大学との派遣、受け入れ、共同研究などの交流を行った。

<熊本大学>

○ 米国ニューメキシコ大学（UNM）海外連携教育プログラムの開発

- ・学部生及び大学院生を対象として、UNMとの国際通用性の高い薬学学部教育プログラムの開発を行った。

【2020年（令和2年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

○ ニュージーランド語学研修

・学部生を対象として、ニュージーランドでホームステイをしながらの語学研修を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止とした。

○ 南カリフォルニア大学における臨床薬学研修

・学部生及び大学院生を対象として、南カリフォルニア大学でのPharm Dコースの一部を体験する臨床薬学研修を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止とした。

<金沢大学>

○ 国際医療人育成プログラム

・学部生及び大学院生を対象として、金沢大学の環境と健康に関する豊富な研究・教育における実績を活かして、1) 疾病を誘発する環境要因を明らかにし疾病予防に結びつけるための高度な研究力の養成、2) 日本人学生も含めた協同学習による国際コミュニケーション能力の涵養、3) 国際機関や各国政府・自治体、研究機関、企業等で環境計測、健康影響評価、予防施策を実践・指導できる人材の育成を目的とした教育研究プログラムを実施した。

○ 短期留学プログラム

・学部生を対象とした単位認定プログラムとして、英語力を伸ばし、専攻に関わるグローバルな視野を広げることを目的とした短期留学プログラムを計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止とした。

・本プログラムは、1) 英語によるコミュニケーション力の醸成、2) 海外における薬学教育の理解、3) 英語プレゼンテーションの実践、4) 異文化体験を目的としたものである。

<静岡県立大学>

○ 薬学英语プログラム

・学部生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学領域における英語コミュニケーションを習得する教育を実施した。

○ イングリッシュリサーチプレゼンテーションプログラム

・学部生及び大学院生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学研究発表を英語で行う際の実用的なトレーニングを実施した。

・学部生は自ら行ってきた卒業研究に基づいて英語での発表資料の作成と発表練習を行った。

○ 科学英語プログラム

・大学院生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による国際学会での発表支援をカリキュラムの中で実施した。

<岡山大学>

○ フィリピン共和国における高度先導的薬剤師研修プログラム 【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、徳島大学と連携して、発展途上国での薬学教育および薬剤師業務の高度化に貢献できる国際性に富んだ高度先導的薬剤師の養成を大きな目標として掲げ、フィリピン・University of San Carlos (USC：岡山大学と大学間交流協定を締結済)における5日間の研修プログラムを計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止とした。

<広島大学>

○ 米国薬学部臨床実習研修

- ・学部生及び大学院生を対象として、テネシー大学、マーサー大学を訪問し、臨床実習や講義の受講、及び各地域の病院・薬局薬剤師業務の研修を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い一部のみオンラインで実施した。

<徳島大学>

○ 2020年度 徳島大学薬学部—米国ノースカロライナ大学 (UNC) 薬学部症例検討ビデオカンファレンス

- ・学部生を対象として、学部間協定校である米国ノースカロライナ大学 (UNC) 薬学部との交流事業の一環として、ビデオ会議システムを活用し、両校学生によるリアルタイムでの症例検討会を例年実施している。
- ・本年度は、3回のビデオカンファレンスを実施し、英語での症例検討を行うことで、臨床におけるグローバルな考え方の必要性について学んだ。

◇ 参加人数：学部生26名

2) その他 (大学としての取組等)

<静岡県立大学>

○ US-COIL：大学の世界展開力強化事業

- ・カリフォルニア大学デービス校健康科学学部の外部講師と薬学部教員による講義をオンラインによる遠隔教育 (COIL型教育) により実施した。
- ・本事業は上智大学・お茶の水女子大学との3大学で実施しており(2018～2022年度)、2020年度はカリフォルニア大学デービス校の大学院生及び上記2大学からも参加して、オンラインで実施した。

○ カリフォルニア大学デービス校大学間協定更新記念講演会

- ・カリフォルニア大学デービス校副学長を外部講師として招へいし (コロナウイルス感染拡大によりウェビナーに変更) 記念講演会を実施した。

<岐阜薬科大学>

○ ドイツの薬局事情を学ぶ研修会

- ・ドイツにおける薬局・かかりつけ薬剤師の事情を学習するために、日本コミュニティファ

ーマシー協会代表理事の吉岡ゆうこ先生と南ドイツロッテンブルク市で薬局を経営するアッセンハイマー慶子先生を招き研修会を行った。

<広島大学>

○ マレーシアなど海外大学との交流

- ・マレーシアInternational Medical University薬学部など、海外大学との派遣、受け入れ、共同研究などの交流を計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、すべてオンラインで実施した。

<九州大学>

○ 九州地区国立大学法人3大学合同シンポジウム【連携】

- ・国際的な創薬研究や医療の発展、保健衛生・公衆衛生の推進に指導的な立場で貢献できる高度先導的薬剤師の育成を図るために、海外連携医療機関での臨床研究に関する研修や薬剤師業務に関するインターンシップ、アセアン諸国における健康環境を探究する衛生薬学研究や感染症対策に関するインターンシップ等を開発・実施に向けて、九州地区の九州大学、熊本大学、長崎大学で合同シンポジウムを開催した。
- ・各大学の海外研修などの取り組みについて情報共有や討議を行った。

<長崎大学>

○ 長崎大学薬学部—ニューメキシコ大学薬学部オンライン交流会

- ・長崎大学薬学部とニューメキシコ大学薬学部のオンライン交流会（UNMCOP-NUSP International Week 2021）を共同開催した。
- ・1週間を交流期間とし、双方の大学・薬学部、教育・実習についての紹介を期間中特設ホームページでオンデマンド配信した。
- ・ニューメキシコ大学のアンダーソン先生とハンター先生による「ニューメキシコにおける薬剤師の職能」及び「薬学教育のカリキュラム」についての講義、長崎大学の佐々木均先生による「最新の研究」についての講演を英語でライブ配信した。
- ・その後双方の大学間で今後の交流について意見交換を行った。

◇ 参加人数：1年次学部生45名、2年次学部生12名、3年次学部生21名、4年次学部生13名、5年次学部生7名、大学院生4名

<熊本大学>

○ 米国ニューメキシコ大学（UNM）海外連携教育プログラムの開発

- ・学部生及び大学院生を対象として、UNMとの国際通用性の高い薬学学部教育プログラムの開発を行った。

【2021年（令和3年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

○ 南カリフォルニア大学における臨床薬学研修

- ・学部生及び大学院生を対象として、南カリフォルニア大学・薬学部 のPharm Dコースの教員による講義やグループワークを行った。2021年度はオンラインにより実施した。

<金沢大学>

○ 短期留学プログラム

- ・学部生を対象とした単位認定プログラムとして、英語力を伸ばし、専攻に関わるグローバルな視野を広げることを目的とした短期留学プログラムを計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止とした。
- ・本プログラムは、1) 英語によるコミュニケーション力の醸成、2) 海外における薬学教育の理解、3) 英語プレゼンテーションの実践、4) 異文化体験を目的としたものである。

<静岡県立大学>

○ 実務事前実習講義

- ・4年次生を対象として、米国アリゾナ大学薬学部のMichael Katz教授が「Pharmacist in Vaccination」というタイトルの講義をオンラインで実施した。

○ 薬学英语プログラム

- ・学部生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学領域における英語コミュニケーションを習得する教育を実施した。

○ イングリッシュリサーチプレゼンテーションプログラム

- ・学部生及び大学院生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学研究発表を英語で行う際の実用的なトレーニングを実施した。
- ・学部生は自ら行ってきた卒業研究に基づいて英語での発表資料の作成と発表練習を行った。

○ 科学英語プログラム

- ・大学院生を対象として、ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による国際学会での発表支援をカリキュラムの中で実施した。

<岡山大学>

○ 実践医療英会話講習会（*）

- ・学部生を対象として、薬剤師が病院や薬局で外国人患者との英語コミュニケーションをとらざるを得ないケースを想定し、患者の情報収集や服薬指導に必要な会話の実践演習（英語でのロールプレイング）を実施した。
- ・模擬患者として本学の英語を標準語とするグローバル・ディスカバリー・プログラムの学生ボランティアを採用し、疾患や症候、医薬品の副作用について外国人模擬患者とディス

カッションを行った。

◇ 参加人数：学部生9名

<広島大学>

○ 米国薬学部臨床実習研修

- ・学部生及び大学院生を対象として、テネシー大学、マーサー大学を訪問し、臨床実習や講義の受講、及び各地域の病院・薬局薬剤師業務の研修を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴いオンラインで実施した。

<徳島大学>

○ 2021年度 徳島大学薬学部—米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部症例検討ビデオカンファレンス

- ・学部生を対象として、学部間協定校である米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部との交流事業の一環として、ビデオ会議システムを活用し、両校学生によるリアルタイムでの症例検討会を例年実施している。
- ・本年度は、3回のビデオカンファレンスを実施し、英語での症例検討を行うことで、臨床におけるグローバルな考え方の必要性について学んだ。

◇ 参加人数：学部生22名

<長崎大学>

○ 3大学「長大・熊大・阪大」合同カリキュラムプランニングワークショップ【連携】

- ・学部生を対象として、学生自主学修プログラムに採択された合同申請プログラムの一環として実施した。
- ・ニューメキシコ大学が提供するInternational Teaching Certificate Program（ITCP）に参加した教員と講義のオンデマンド教材を一部視聴した学生が集まり、学生によるTBL体験や教員・学生合同による薬学臨床教育のカリキュラムプランニングに関する討論を行った。
- ・高度先導的薬剤師養成に資する学生の臨床教育能力を涵養することができた。

◇ 参加人数：長崎大学11名（教員7名、学生4名）、熊本大学6名（教員2名、学生4名）、大阪大学6名（教員2名、学生2名）、ニューメキシコ大学1名（教員）

2) その他（大学としての取組等）

<北海道大学>

○ 6大学ジョイントシンポジウム

- ・教員による研究発表を実施した。

<静岡県立大学>

○ US-COIL：大学の世界展開力強化事業

- ・カリフォルニア大学デービス校健康科学学部の外部講師と薬学部教員による講義をオンラインによる遠隔教育（COIL型教育）により実施した。
- ・本事業は上智大学・お茶の水女子大学との3大学で実施しており（2018～2022年度）、2020年度はカリフォルニア大学デービス校の大学院生及び上記2大学からも参加して、オンラインで実施した。

○ カリフォルニア大学デービス校大学間協定更新記念講演会

- ・カリフォルニア大学デービス校副学長を外部講師として招へいし（コロナウイルス感染拡大によりウェビナーに変更）記念講演会を実施した。
- ・今年度はカリフォルニア大学デービス校の卒業生もオンラインで参加して、英語で卒業研究の内容を紹介し合い、質疑応答を行った。

<広島大学>

○ マレーシアなど海外大学との交流

- ・マレーシアInternational Medical University薬学部など、海外大学との派遣、受け入れ、共同研究などの交流を計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、すべてオンラインで実施した。

<長崎大学>

○ 長崎大学薬学部—ニューメキシコ大学薬学部オンライン交流会（*）

- ・長崎大学薬学部とニューメキシコ大学薬学部のオンライン交流会（UNMCOP-NUSP International Week 2022）を共同開催した。
- ・双方の大学・薬学部、教育・実習についての紹介を期間中特設ホームページでオンデマンド配信した。
- ・日米3名の先生方による講演をリアルタイムでライブ配信し、教員や学生による意見交換を行った。
- ・学生・大学院生による研究交流として、2日間にわたりニューメキシコ大学の学生4名と長崎大学の学生・大学院生3名による研究発表会をリアルタイムオンラインで実施した。
- ・長崎とアルバカーキの薬局の協力により、薬局製剤の調製に関する動画を制作し、期間中にオンデマンド配信を行った。

◇ 参加人数：1年次学部生40名、2年次学部生42名、3年次学部生20名、4年次学部生6名、5年次学部生3名、大学院生3名

<熊本大学>

○ International Teaching Certificate Program の受講に基づくカリキュラムプラン
ニングワークショップ

- ・世界各国の医療システムおよび感染症対策を学ぶオンライン海外研修として、ニュージーランド、ネパール、バングラデシュ、スーダン、ドミニカ共和国、中国、イギリスの医療

システムおよび新型コロナウイルス感染症対策について、海外の大学教員によるオンライン講義で学ぶ研修を実施した。

3. グローバル健康環境教育研究推進プログラム

本プログラムでは、グローバルな医療人としての広範かつ高度な専門性と高い使命感、領域を超えた汎用力を修得し、国際的な保健衛生・公衆衛生に指導的な立場で貢献できる高度先導的薬剤師として、文理協働による国際的な医療活動や、発展途上国における感染症予防や食・環境の安全確保、さらに国際的な保健衛生の課題解決や発展途上国での保健衛生・医療教育に貢献できる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、本事業はその発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「グローバル健康環境教育研究推進プログラム」については、国公立大学における豊富な国際的な教育研究交流、特に東南アジア等における感染症対策などの保健衛生・公衆衛生上の課題や環境問題、食糧問題といった健康環境に係る研究を実施している機関・大学との交流実績を基盤として実施する。本プログラムとしては、グローバルな視点での実践的なコミュニケーション能力を修得する実践的語学教育プログラム（共通）から、学部及び大学院博士課程における国際保健衛生・公衆衛生教育研究プログラムや文理協働型発展途上国健康環境インターンシッププログラムといった発展途上国を中心とした海外における教育研究活動の実施が挙げられる。後者については、SDGs達成に向けた実践的フィールドワークなどが有用である。

以下、参画大学の事業成果報告をもとに、年度毎に、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては、別添の資料が提出されているが、紙面の関係上本報告書には掲載していない。これらについては、本事業のホームページあるいは各実施大学のホームページ等で公開しているので、参照いただきたい。

【2016年（平成28年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<金沢大学>

- 環境要因による疾病の解明と防止を担う国際医療人育成プログラム（*）

- ・大学院生を対象として、2014年度に環境要因と疾病の関連解明、環境保全、疾病予防に関する専門知識と総合研究能力を有する国際医療人を育成するコースを設置した。
- ・本プログラムでは、金沢大学の環境と健康に関する豊富な研究・教育における実績を活かして、1) 疾病を誘発する環境要因を明らかにし、疾病予防に結びつけるための高度な研究力の養成、2) 日本人学生も含めた協同学習で国際コミュニケーション能力の涵養、3) 国際機関や各国政府・自治体、研究機関、企業等で環境計測、健康影響評価、予防施策を実践・指導できる人材の養成を図った。
- ・本プログラムの修了要件は、初期総合カリキュラム4単位以上、薬学専攻選択科目から12単位以上、薬学専攻必修科目16単位以上及び所属専攻以外が開設する授業科目（博士課程共通）から2単位以上、合計34単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとした。
- ・環境と健康の問題に国際的視野で携わる教員が専攻を越えて結集し、通常大学院カリキュラムと並行して実施した。外国人留学生と日本人学生との共同教育を基本とし、国内外の環境および医療の現場での実習により国際感覚を涵養した。

2) その他（大学としての取組等）

【2017年（平成29年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<東北大学>

○ 台北医科大学との部局間学術協定事業 【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、台北医科大学との部局間学術協定に基づいて、短期間の学術交流を実施した。
- ・東北大学薬学部への当該大学からの特別研究学生の受入を行い、北海道大学との連携によって、学生及び教員の派遣を行い、交換留学プログラム報告会を開催した。

<金沢大学>

○ 環境要因による疾病の解明と防止を担う国際医療人育成プログラム

- ・大学院生を対象として、2014年度に環境要因と疾病の関連解明、環境保全、疾病予防に関する専門知識と総合研究能力を有する国際医療人を育成するコースを設置した。
- ・本プログラムでは、2016年度に引き続き、金沢大学の環境と健康に関する豊富な研究・教育における実績を活かして、1) 疾病を誘発する環境要因を明らかにし、疾病予防に結びつけるための高度な研究力の養成、2) 日本人学生も含めた協同学習で国際コミュニケーション能力の涵養、3) 国際機関や各国政府・自治体、研究機関、企業等で環境計測、健康影響評価、予防施策を実践・指導できる人材の養成を図った。

<岡山大学>

○ 海外病院薬剤部見学研修【連携】（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、グローバルな医療人の感覚を醸成するために、台湾で第一級の台北医科大学病院(TMU)および近隣病院(萬芳病院、双和病院)の薬剤部を見学後、各病院の指導薬剤師と様々な点について意見交換を行うことで、アジアの医療薬学の現状、進捗状況などを体感する研修を実施した。
 - ・台湾(台北市) 臺北市立萬芳病院薬剤部、臺北医療大学(Taipei Medical University : TMU) 病院薬剤部、TMU薬学部の3日間の見学研修を行った。本研修への参加により参加者自身の専門領域だけではなくより広い視野で、病院薬剤部のIT化推進、医療安全システムの拡充、卓越した医療保険制度等について体験的に学んだ。
- ◇ 参加人数：岡山大学大学院博士課程学生1名(岡山大学)、他大学の学生10名

<熊本大学>

○ 海外病院薬剤部見学研修【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、グローバルな医療人の感覚を醸成するために、台湾で第一級の台北医科大学病院(TMU)および近隣病院(萬芳病院、双和病院)の薬剤部を見学後、各病院の指導薬剤師と様々な点について意見交換を行うことで、アジアの医療薬学の現状、進捗状況などを体感する研修を実施した。
 - ・台湾(台北市) 臺北市立萬芳病院薬剤部、臺北医療大学(Taipei Medical University : TMU) 病院薬剤部、TMU薬学部の3日間の見学研修を行った。本研修への参加により参加者自身の専門領域だけではなくより広い視野で、病院薬剤部のIT化推進、医療安全システムの拡充、卓越した医療保険制度等について体験的に学んだ。
- ◇ 参加人数：学部生及び大学院生11名

○ 行政インターンシップ

- ・学部生及び大学院生を対象として、医学、薬学、生命科学などの学問領域のみならず、臨地経験に基づく福祉、公衆衛生、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理等の知識を修得するために、グローバルな視点から保健衛生に係る行政インターンシップを実施した。
- ・熊本県地域医療再生計画の拠点の1つである天草(上天草)において、“へき地”でも充実した医療を受けられる「地域包括ケアシステム」の実現に向けて、医療関係者だけでなく、行政関係者など、多職種と、熊本大学及び崇城大学の大学院生及び学部学生がワークショップ開催や地域健康フェアへの出展を行った。
- ・留学生(中国・ミャンマー・バングラデシュ・ネパール・エジプト)が参加し、グローバルな視点から持続可能な政策に繋がる具体的な提案を取りまとめた。
- ・インターンシップの内容は地域の新聞に取り上げられ、上天草市立上天草総合病院内学術研究会において、学生代表がインターンシップの取組・成果を発表した。

2) その他(大学としての取組等)

<静岡県立大学>

○ 薬食生命科学総合学府の設置

- ・2012年度より大学院を薬学部と食品栄養科学部との融合型である薬食生命科学総合学府とした。
- ・2018年度以降も両学部融合型カリキュラムによる健康長寿を推進する研究・教育を実施している。

<金沢大学>

○ 地球規模の薬・食の安全や環境問題に対して複眼的な視点を持てる薬剤師の養成
(*)

- ・本学環日本海域環境研究センターと連携し、環境変動に対して最も敏感であるユーラシア東部・環日本海において、放射能計測や電磁場応用、バイオセンサなどを含む先端的計測技術を用いて、今後生起する環境変動に関する予知・予測を行ってきた。また、カウンターフィット薬による健康被害対策のための国内外の事態調査や対策のための研究を行ってきた。
- ・これらを統合し地球規模の薬・食の安全や地球規模の薬・食の安全や環境問題に対して複眼的な視点を持てる薬剤師の養成を目的とする教育研究プログラムを構築する。

【2018年（平成30年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<東北大学>

○ 台北医科大学との部局間学術協定事業 【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、台北医科大学との部局間学術協定に基づいて、短期間の学術交流を実施した。
- ・東北大学薬学部への当該大学からの特別研究学生の受入を行い、北海道大学との連携によって、学生及び教員の派遣を行い、交換留学プログラム報告会を開催した。

<金沢大学>

○ 環境要因による疾病の解明と防止を担う国際医療人育成プログラム

- ・大学院生を対象として、2014年度に環境要因と疾病の関連解明、環境保全、疾病予防に関する専門知識と総合研究能力を有する国際医療人を育成するコースを設置した。
- ・本プログラムでは、2017年度に引き続き、金沢大学の環境と健康に関する豊富な研究・教育における実績を活かして、1) 疾病を誘発する環境要因を明らかにし、疾病予防に結びつけるための高度な研究力の養成、2) 日本人学生も含めた協同学習で国際コミュニケーション能力の涵養、3) 国際機関や各国政府・自治体、研究機関、企業等で環境計測、健

康影響評価、予防施策を实践・指導できる人材の養成を図った。

<熊本大学>

- 米国ニューメキシコ大学（UNM）海外連携教育プログラムの開発
 - ・ UNMとの国際通用性の高い薬学学部教育プログラムの開発を行った。

2) その他（大学としての取組等）

【2019年（平成31年／令和元年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

- タイでのインターンシップ（熊本大学HIGOプログラム） 【連携】
 - ・ 学部生を対象として、熊本大学の「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」の事業の一つである10日間のタイでのインターンシップに本学年生が参加した。
 - ・ バンコクにあるマヒドン大学医学部シリラート病院、タイ東部チョンブリのブラパー大学薬学部・医学部附属病院をはじめ、市中のドラッグストア、JICA・JASSO、日系製薬企業を訪問し、タイにおける薬学研究、医療人材育成、医療ビジネス、社会保障対策の現状を学んだ。
- ◇ 参加人数：5年次生1名

<東北大学>

- 台北医科大学との部局間学術協定事業 【連携】
 - ・ 学部生及び大学院生を対象として、台北医科大学との部局間学術協定に基づいて、短期間の学術交流を実施した。
 - ・ 東北大学薬学部への当該大学からの特別研究学生の受入を行い、北海道大学との連携によって、学生及び教員の派遣を行い、交換留学プログラム報告会を開催した。

<熊本大学>

- タイでのインターンシップ（熊本大学HIGOプログラム） 【連携】
 - ・ 学部生を対象として、「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO」の事業の一つである10日間のタイでのインターンシップを実施した。
 - ・ バンコクにあるマヒドン大学医学部シリラート病院、タイ東部チョンブリのブラパー大学薬学部・医学部附属病院をはじめ、市中のドラッグストア、JICA・JASSO、日系製薬企業を訪問し、タイにおける薬学研究、医療人材育成、医療ビジネス、社会保障対策の現状を学んだ。

2) その他（大学としての取組等）

【2020年（令和2年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<東北大学>

○ 台北医科大学との部局間学術協定事業【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、台北医科大学との部局間学術協定に基づいて、短期間の学術交流を実施した。
- ・東北大学薬学部への当該大学からの特別研究学生の受入を行い、北海道大学との連携によって、学生及び教員の派遣を行い、交換留学プログラム報告会を開催した。

2) その他（大学としての取組等）

【2021年（令和3年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<熊本大学>

○ 日本におけるワクチンによる予防医学を学ぶ研修

- ・大学院生を対象として、ワクチンによる予防医学を学ぶ研修を実施した。
- ・子宮頸がん予防のヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンを例として、日本におけるワクチンによる予防医学について医療従事者、患者、研究者、ワクチン開発企業、行政職、薬害被害者の観点から多角的に学び、さらに海外と日本の HPV ワクチン接種環境を比較し、日本のワクチンによる予防医学の課題について学ぶ研修を実施した。
- ・台北医科大学との部局間学術協定に基づいて、短期間の学術交流を実施した。

2) その他（大学としての取組等）

4. 地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム

本プログラムでは、国公立大学が全国8地区（北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国、九州・山口）における薬学人材養成教育を担う拠点として、地区内の大学及び医療関連機

関との有機的な連携体制を構築し、これに基づいた学部・大学院における薬学人材養成教育の高度化・実質化、社会人教育・社会貢献活動の充実、改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習の実施体制の整備を行うことにより、地域における医療の充実・発展を推進する。

本プログラムは他の4プログラムとは異なり、本事業で国公立大学が開発・実施している教育研究プログラム等の地域さらには全国での推進を目的とするものであり、前事業の「先導的薬剤師養成アドバンスト教育プログラム」の地域への普及や、地域医療の高度化に向けた連携教育研究事業、例えば文部科学省・課題解決型高度医療人材養成事業等の企画・推進、全国的な普及が挙げられる。これまで国公立19大学は、全国8地区においてそれぞれ地域の病院や薬局との連携のもとに、薬学実務実習を主導し、また地域医療の発展を担ってきた。本事業では、こういった連携体制と実績を基盤として、薬学人材養成教育を担う拠点の構築と教育研究プログラムの普及・定着による推進を目指すものである。

以下、参画大学の事業成果報告をもとに、年度毎に、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては、別添の資料が提出されているが、紙面の関係上本報告書には掲載していない。これらについては、本事業のホームページあるいは各実施大学のホームページ等で公開しているので、参照いただきたい。

【2016年（平成28年）度】

<京都大学>

- 先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発におけるPBL教育用シナリオ集の作成と共有 【連携】

・2010～2015年度に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」において、参加国立14大学より提供を受けたPBL教育用シナリオ集を加筆・修正の上、編集を行い公開した。

【2017年（平成29年）度】

実施なし

【2018年（平成30年）度】

<岡山大学>

- 石巻地区被災地医療研修 (*)

・学部生を対象として、災害時医療及び災害時における地域の医薬品供給体制や医療救護体制を学び薬剤師等の役割を理解することを目的として、石巻赤十字病院において東日本大震災の現状とその対応について確認・体験学習・討議を行った。

- ・震災前と全く光景が変わった被災地の見学により津波の恐ろしさを体感できた。モバイルファーマシーの前身となった移動薬局の結成、医薬品の供給、在庫管理等に薬剤師が活躍できることや、地域における医療連携体制、多職種間における患者情報の共有について学ぶことができた。

◇ 参加人数：6年次生1名、教員1名

○ 川崎医大現代医学教育博物館見学及び倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流

(*)

- ・学部生を対象として、人体及び疾病について広く深い学習の場の見学により医療人としての自覚を促すと共に本学薬学部学生の備えるべき教養と人間性を涵養することを目的として、川崎医大現代医学教育博物館の見学と、倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流を実施した。
- ・薬学部学生にとって医療人としての自覚を促す観点からも重要な機会となり、また医学薬学の世界と違う形での創造性に富む意欲的な作品に触れ刺激を受けることで、薬学部学生の備えるべき教養と人間性の涵養の機会となった。

◇ 参加人数：学部生8名、教員4名

【2019年（平成31年／令和元年）度】

<金沢大学>

○ 薬剤師による薬物治療の実践－褥瘡治療を例として－

- ・学部生及び大学院生を対象として、地域における薬剤師による薬物治療の実践講習に参加する研修を実施した。褥瘡治療の知識と実技の習得を図った。

○ がん高度医療人材養成事業

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、がん薬物療法における最新知識及び臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的とした研修会を実施した。

<岐阜薬科大学>

○ 新しい緩和医療を体験学習する～リボン洞戸における宿泊研修～

- ・学部生を対象として、リボン洞戸における宿泊研修を実施した。
- ・日本でのがんによる死亡者数は第1位で、約3人に1人が亡くなっており、年間で見ると約35万人にのぼる。がんの代表的な治療方法のほか、免疫治療、温熱療法、代替医療なども目を向けることによって、より多くのがん治療を選択することが可能になる。そこで、リボン洞戸において免疫力を上げ、がんを予防するための生活習慣「リボン5か条」を体験することにより、これからの新しい緩和医療について学習した。

<岡山大学>

○ アドバンスト検体測定・生体モニタリング (*)

- ・学部生及び大学院生、卒後の薬剤師を対象として、アドバンスト検体測定・生体モニタリ

ング演習を6回実施した。

- ・保険薬局で実施可能な検体測定に加え、薬局や在宅医療チームの一員として薬剤師も実施することが望ましいバイタル測定の正しい手技、さらに健康サポートに有用な非侵襲の生体モニタリングを体験し、その有用性について考える機会となった。

◇ 参加人数：学生4名、教員1名

○ 漢方専門薬局短期インターンシップ（*）

- ・学部生を対象として、漢方専門薬局が日々どのように様々な来客者に対峙し、個々に最適な漢方処方を経営しているのかを学ぶことを目的として、画期的な煎出法であるIPCD法の開発を行った研究者が営む老舗漢方専門薬局を訪問し、2日間のインターンシップを実施した。
- ・証を判断するための脈診や舌診などのロールプレイのほか、今では全国的にも数少なくなつた丸剤の自家調製を「知柏地黄丸」や「桂枝茯苓丸」で体験した。

◇ 参加人数：学生4名、教員1名

○ OTCカウンセリング研修（*）

- ・学部生を対象として、患者さんの症状や状況に応じて適正なOTCを選択するための知識を現場での体験を通して学ぶことを目的として、OTCカウンセリング研修を実施した。
- ・本研修では、実際のドラッグストア店舗において主な適応の同じ多くの市販薬の成分の違いからどのような患者にどのような市販薬を進めるかについて注意すべき点を学ぶとともに、ロールプレイを通じて適正なOTCを選択するための知識やスキルを実践的に学んだ。

◇ 参加人数：学生4名、教員1名

○ 精神科病院薬剤師研修：精神科の薬剤師業務を体験しよう（*）

- ・学部生を対象として、精神科病院で薬剤師に求められる他科とは異なる役割について模擬体験を通して学ぶことを目的として、精神科病院薬剤師研修を実施した。
- ・本研修では、岡山県精神科病院協会薬剤師部会の先生方の協力を得て、精神科医療の現場で行われている「心理教育」の模擬体験を通じて、精神科で求められる「医療人」としての薬剤師とはどのようなものなのかを体験した。

◇ 参加人数：学生5名、教員2名

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム講演会（大澤光司氏）（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、高度先導的薬剤師養成プログラム講演会を実施した。本講演会では、前全国薬剤師・在宅療養支援連絡会会長の大澤光司氏を講師として招き、今後薬剤師が高齢者医療へどのような形で関われるのかについて、情報交流の機会を提供した。
- ・多職種連携によって薬剤師による薬物療法から派生する在宅支援に向けた貴重な講演会となった。

◇ 参加人数：学生3名、教員1名、薬剤師14名

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナーの開催

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを実

施した。人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生する中で、薬局薬剤師が関与することによってこの問題を解決することを目指し、一般市民への啓発活動を行った。

- ・漢方薬局も加え東洋医学的観点からの生活習慣指導を行った。

<長崎大学>

○ 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・学部生を対象として、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎を実施した。
- ・薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材養成の拠点作りを目指している事業である。
- ・2019年度は、長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の4つの科目を提供した。

○ 長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生を対象として、長崎薬学コンソーシアムを実施した。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図った。

【2020年（令和2年）度】

<金沢大学>

○ がん高度医療人材養成事業

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、がん薬物療法における最新知識及び臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的とした研修会を実施した。

<岡山大学>

○ 津山洋学資料館訪問

- ・学部生及び大学院生を対象として、津山洋学資料館訪問を実施した。日本初の本格的な化学書「舎密開宗」(chemistryの翻訳)を著した宇田川榕菴の実績や地域の医療活動に尽力した蘭方医たちの資料が展示されている県内の資料館を訪問し、現在も使用されている化学用語、日本の医学・薬学の源泉が岡山にあることを知り、岡山中で薬学を学ぶことを考える機会を提供した。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナーの開催

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを実

施した。人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生する中で、薬局薬剤師が関与することによってこの問題を解決することを目指し、一般市民への啓発活動を行った。

- ・漢方薬局も加え東洋医学的観点からの生活習慣指導を行った。

<長崎大学>

○ 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・学部生を対象として、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎を実施した。
- ・薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材養成の拠点作りを目指している事業である。
- ・2020年度は、長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の4つの科目を提供した。
- ・例年、他大学からの履修希望者もいた夏季休暇中に実施予定の実習科目は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で不開講となった。

○ 長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生を対象として、長崎薬学コンソーシアムを実施した。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図った。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で定例会議をオンラインで開催した。

【2021年（令和3年）度】

<富山大学>

○ 早期介護体験実習

- ・1年生次に医薬看の学生の混成チームとなり、早期介護体験実習として福祉施設や慢性期病棟を持つ病院にて1週間の実習を受け、地域医療での医療人、またその中でも薬剤師の役割を学んだ。

<金沢大学>

○ がん高度医療人材養成事業

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、がん薬物療法における最新知識及び臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的とした研修会を実施した。

<岡山大学>

○ 難病患者講演会（*）

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、オンライン形式で、渡邊郁靖教諭（大分県立中津北高等学校教諭・書道家）による「生きることと題した難病患者講演会を実施した。
- ・ALS患者としてのみならず教育者として、薬学に携わる者また教員に対して多くのメッセージをいただいた。講演会に先立ち、学生によるSGDを行い、ALSについて知る時間、さらに講演後に振り返りを設けた。薬学を学ぶ者、教える者にとって薬学がどのようなかたちで社会に貢献できるのか、また社会から期待されているのかを考える良い機会となった。

◇ 参加人数：84名

○ 津山洋学資料館訪問（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、津山洋学資料館訪問を実施した。幕末から明治期の美作地域にある医家の調査の間を再現した展示や『解体新書』の実物など蘭学が始まったころの資料を展示している資料館を訪問し、岡山に日本医学の原点があることを知ることで、本学にて薬学を学ぶモチベーションの向上を図ることを目的としている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン講義へ移行し大学での学びに対するモチベーション低下が懸念された1年生（34名）を対象に日帰り学外研修として実施した。

○ 国立療養所見学研修

- ・学部生及び大学院生を対象として、国立療養所見学研修を実施した。治療薬がなかったことで疾患への誤った医療知識が広まり差別を生み出したハンセン病の歴史を知り、医薬品に携わる者としての使命を自覚する機会として、岡山県内にある国立ハンセン病療養所長島愛生園を訪問した。

◇ 参加人数：14名

○ 川崎医大現代医学教育博物館見学及び倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流（*）

- ・学部生を対象として、人体及び疾病について広く深い学習の場の見学により医療人としての自覚を促すと共に本学薬学部学生の備えるべき教養と人間性を涵養することを目的として、川崎医大現代医学教育博物館の見学と、倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流を実施した。
- ・薬学部学生にとって医療人としての自覚を促す観点からも重要な機会となり、また医学薬学の世界と違う形での創造性に富む意欲的な作品に触れ刺激を受けることで、薬学部学生の備えるべき教養と人間性の涵養の機会となった。

◇ 参加人数：学部生16名

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナーの開催

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを実施した。人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生する中で、薬局薬剤師が関与することによってこの問題を解決することを目指し、一般市民への啓発活動を行った。
- ・漢方薬局も加え東洋医学的観点からの生活習慣指導を行った。

<長崎大学>

○ 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・学部生を対象として、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎を実施した。
- ・薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公私立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材養成の拠点作りを目指している事業である。
- ・2021年度は、長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の4つの科目を提供した。
- ・他大学からの履修希望者もいた夏季休暇中に実施予定の実習科目は、2020年度に引き続き新型コロナ感染拡大の影響で不開講となった。

○ 長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生を対象として、長崎薬学コンソーシアムを実施した。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図った。
- ・2021年度は、2020年度に引き続き新型コロナ感染拡大の影響で定例会議をオンラインで開催した。

5. 地域医療薬学教育研究推進プログラム

本プログラムでは、全国8地区において、国公立大学を拠点とした地区・地域内の大学及び医療関連機関との有機的な連携によって、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師として、地域の福祉医療・保健衛生を主導し、大学・地域連携による先進的医療を担うことができる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。さらに、多職種連携によるチーム医療・地域医療教育を担う実務実習指導薬剤師や臨床系大学教員の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、本事業はその発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「地域医療教育研究推進プログラム」については、これまで国公立19大学が全国8地区（北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国、九州・山口）において、それぞれ地域の病院や薬局との連携のもとに主導してきた薬学実務実習の実施体制や地域医療発展へ貢献してきた実績を基盤とし、また本事業の「地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム」において構築した薬学人材養成教育拠点を基軸として実施する。本プログラムとしては、地域の医療機関や病院、薬局、他大学との連携による、高度先導的薬剤

師養成において重要な優れた臨床能力の養成に必要な地域医療教育を主導できる指導薬剤師研修プログラムや、自大学卒業生・修了生をはじめ社会で活躍する薬学人材のキャリアアップや専門性の高度化を可能とするアドバンストリカレント・アドバンスト生涯教育プログラム、学部生や大学院生の地域医療への関心を高め実践的な臨床能力の向上を図る地域医療アドバンストインターンシッププログラムの実施が挙げられる。

以下、参画大学の事業成果報告をもとに、年度毎に、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては、別添の資料が提出されているが、紙面の関係上本報告書には掲載していない。これらについては、本事業のホームページあるいは各実施大学のホームページ等で公開しているので、参照いただきたい。

【2016年（平成28年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<金沢大学>

○ 地域医療体験型教育プログラムの開発2ー地域で働く薬剤師の現状とその期待を知り、自らの将来を考えるー

・学部生を対象として、医療従事者と薬剤師との連携が重要課題となる在宅医療やへき地医療について、連携構築を行いこれらの医療に関する授業プログラムの開発を図った。

○ 薬物治療検討会

・学部生を対象として、薬物治療に関する薬学類学生の発表と金沢大学附属病院などの各専門分野の臨床医師による最新の薬物治療に関する講義を地域薬剤師に公開して、薬剤師と共に議論を行った。

○ 薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業の推進

・学部生及び大学院生を対象として、本学薬用植物園や県内数カ所の薬草栽培試験地において、「薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業」を推進した。

○ 地域薬剤師・薬学教員間連携コンソーシアムによる薬学教育の革新と臨床現場での課題解決（*）

・学部生及び大学院生を対象として、地域薬剤師と薬学系教員の連携により、学生や地域の若手薬剤師に対する教育の推進と臨床現場での課題解決を目指して「金沢薬学革新コンソーシアム」を設立し、事業を行った。

・本プログラムは、2017年度以降も継続して実施する。

<京都大学>

○ 改訂モデル・コアカリキュラム対応型地域医療教育プログラム

- ・学部生を対象として、従来症例検討などを行っていた授業「地域医療薬学」の内容を刷新し、在宅訪問など地域医療の最前線で活躍している薬局薬剤師を講師として招き、講義・演習形式の授業を提供した。
- ・医療実務事前学習において、附属病院看護部より講師を招き、在宅医療への貢献を目的としたフィジカルアセスメント実習を行った。

2) その他（大学としての取組等）

<岐阜薬科大学>

○ 改訂モデル・コアカリキュラムに沿ったポートフォリオシステムの構築

- ・学部生を対象として、改訂モデル・コアカリキュラムに沿ったポートフォリオシステムの構築を構築し、使用を開始した。

<岡山大学>

○ 岡山大学薬学部と神戸大学病院との教育研究連携事業（1）遺伝子多型と分子標的薬の治療効果および副作用発現の関連性に関する臨床調査研究

- ・本学部は、神戸大学病院薬剤部との教育・研究連携を進めており、その一環として、四宮准教授らが中心となって神戸大学病院と共同で実施している「遺伝子多型と分子標的薬の治療効果および副作用発現の関連性」に関する臨床調査研究を推進した。研究成果は、国際誌「Target Oncol.」に掲載された（2015年度）。
- ・岡山大学薬学部生が参加した神戸大学病院との共同研究「腎細胞癌における分子標的薬の治療効果とSTAT3遺伝子多型との関連性」の成果が国際誌「Med. Oncol.」に掲載された（2016年度）。

○ 岡山大学薬学部と神戸大学病院との教育研究連携事業（2）Single nucleotide polymorphismsとmTOR阻害薬の副作用発現との関連性に関する研究

- ・岡山大学薬学生らと神戸大学大学院医学研究科の学生らが中心となって実施した「Single nucleotide polymorphisms とmTOR阻害薬の副作用発現との関連性」に関する研究の成果を日本薬学会136年会（2015年度）で発表した。

【2017年（平成29年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

○ 高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース

【連携】（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、日本の平均より15年先行して高齢化を迎えている北信地域において、在宅医療やゲノム医療による個別化したがん治療の演習や実習を実施した。

- ・金沢大学と単位互換制度をとり、ゆるやかな連携を予定している。

<金沢大学>

○ 薬物治療検討会

- ・学部生を対象として、薬物治療に関する薬学類学生の発表と金沢大学附属病院などの各専門分野の臨床医師による最新の薬物治療に関する講義を地域薬剤師に公開して、薬剤師と共に議論を行った。

○ 薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業の推進（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、本学薬用植物園や県内数カ所の薬草栽培試験地において、「薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業」を推進した。

○ 地域薬剤師・薬学教員間連携コンソーシアムによる薬学教育の革新と臨床現場での課題解決（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、地域薬剤師と薬学系教員の連携により、学生や地域の若手薬剤師に対する教育の推進と臨床現場での課題解決を目指して「金沢薬学革新コンソーシアム」事業を実施した。
- ・2016年度から実施している事業であり、地域薬剤師と本学薬学系教員とが連携する金沢薬学革新コンソーシアムを母体とし、臨床現場で起こる課題を、薬学系教員の指導のもと、本学の課題解決型授業(卒業研究等)に取り込み、その解決へ向けた提案を行ってきた。本年度はこの骨格を維持しつつ、薬学類学生が臨床現場と大学とを行き来する実務実習を新たに利用し、課題提案型授業を開発することでこのサイクルを加速し、高度化を図った。
- ・このサイクルは、1) 薬剤師が臨床現場で見出した課題を本学教員が窓口となり吸い上げる、2) 学類生が実務実習等を通して自ら課題を見いだす、3) 当該課題を課題解決型授業の教材として活用し地域を志向した人材育成を図る、4) 教員との連携により患者検体の薬物・生体内物質濃度測定等の予備検討を行う、5) 地域薬剤師に対し課題解決への提案を行う、といった地域貢献・教育・研究の連動に特色がある。

<名古屋市立大学>

○ 沖縄でのアドバンストIPE地域医療実習の開発（*）

- ・学部生を対象として、本学オリジナルで行っている多職種協働での地域医療に貢献する高度医療人材養成プログラムの一環として、コミュニティ・ヘルスケア論の授業（選択 実習）として位置づけ、1年次生からのプログラム受講者の最後の実習として1週間の沖縄でのアドバンストIPE地域医療実習を実施した。
- ・学生が現地の住民とコミュニケーションをとり独特の文化を理解するところから始まる本実習は、コミュニケーション能力、課題解決能力の醸成に有効と考えられる。
- ・本実習は、本学看護学部とも連携をとって行っており、IPEの一環として、若い教員の地域医療教育のFDとしても活用している。2017年度は、来年度以降の本格実施に向けパイロットケースとして2回の実習を企画し、今後の研修の可能性を探った。本実習は、実習施設、宿泊施設の提供などを琉球大学医学部附属病院ならびに沖縄県北部地区薬剤師会の全面的

な協力を得て実施した。

<岡山大学>

○ 検体測定に関する公開講演会 (*)

- ・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、検体測定に関する公開講演会を実施した。薬局等での自己採血による検体測定が正式に認められ、今後薬局では適切な受診勧奨の判断ができる能力が必要でありその際に検体測定は大きな武器に成り得ることから、岡山県でいち早く検体測定室を設置した薬局と地域住民の糖尿病治療に貢献している薬局の薬剤師を講師として、「検体測定は地域住民を救い、薬剤師も救う！-薬局薬剤師による検体測定の意義-」と題する公開講演会を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生4名、教員3名、薬剤師3名

○ サプリメント等の臨床的エビデンスに関する公開講座 (*)

- ・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、部生及び大学院生を対象として、サプリメント等の臨床的エビデンスに関する公開講座を実施した。薬局薬剤師は、今後地域におけるOTCでのセルフメディケーションの他、健康相談を受け健康食品やサプリメント等を用いた疾患予防・健康寿命延伸にも貢献することが求められていることから、DHC研究顧問である医師を講師として、「薬剤師は地域住民の健康維持・増進に何ができるのか？-健康食品・サプリメントの有用性に関するエビデンスを知る-」と題する90分2コマの公開講座を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生8名、教員5名、薬剤師7名

○ 保険薬局における働き方改革に関する公開講演会 (*)

- ・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、保険薬局における働き方改革に関する公開講演会を実施した。国は「患者のための薬局ビジョン」において地域包括ケアシステムを念頭に在宅対応を強く求めており、いかにすれば医療専門職である薬剤師が本来成すべき業務に注力できるのかが重要であることから、働き方改革を実践しているに薬局から薬剤師とそれを支えているパートナーを招き、「大変革する保険薬局薬剤師の働き方-なぜ成すべき業務に集中できるのか-」と題する公開講演会を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生10名、教員5名、薬剤師21名

○ がん領域における先導的薬剤師を目指す公開講演会 (*)

- ・学部生、大学院生、教員及び薬剤師を対象として、がん領域における先導的薬剤師を目指す公開講演会を実施した。大学院に通いながらがん領域のスペシャリストを目指すがんプロフェッショナル養成プランとの共催により、がんプロ薬剤師コースの説明後、岡山大学病院の総合診療内科で漢方外来を行っている医師による「癌治療における漢方」と題する講演を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生7名、教員6名、薬剤師1名

○ プライマリケア領域で活躍する先導的薬剤師養成に関する公開講演会 (*)

- ・学部生、大学院生、教員及び薬剤師を対象として、プライマリケア領域で活躍する先導的

薬剤師養成に関する公開講演会を実施した。今後、特に薬局薬剤師にはプライマリケア領域での活躍が大いに期待され、来局者への対応を的確に判断するためにはこれまで薬学部の教育では十分なされてこなかった医療面接や臨床推論の実践的スキルが不可欠であることから、第1回日本臨床薬剤師シミュレーション教育研究会との共催により、保険薬局からレジデントを受入れ実際に家庭医療薬剤師を育成している現状を紹介する講演会を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生8名、教員2名、薬剤師11名、シミュレーション研究会参加者約50名

○ 検体plusバイタル測定講習会（*）

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、2017年度に実施した検体測定に関する公開講演会に続くものとして、実際に検体測定に興味のある学部生、大学院生、薬剤師を対象に3回の実技講習会を行い、現在薬剤師が薬局でできる検査や非侵襲の測定装置の使い方だけではなく、今後どのような検査や測定が利用できれば地域住民の健康維持や薬学的管理に有用かを考える機会を提供した。

<徳島大学>

○ 徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク（TPN）

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、臨床で活躍中の医療関係者（医師・薬剤師・看護師等）を講師として招き、地域薬剤師との身近な勉強会並びに長期実務実習を行う市中の病院・薬局との情報交換の場として参加型研修会を年数回実施した。
- ・地域薬剤師への生涯学習の場として先進的薬剤業務の知識習得をサポートするだけでなく、学部学生にも自主的な参加を呼びかけ、徳島を拠点とした薬剤師・薬学生の交流の場として職能教育に役立つと期待される。また学生が地域薬剤師と共に学ぶことによって刺激を受け、就学意識の向上および生涯学習の重要性の認識につながることを期待される。
- ・本事業は、来年度以降も実施する。

<長崎大学>

○ 九州薬科学研究教育連合合宿研修【連携】

- ・大学院生を対象として、長崎大学、九州大学及び熊本大学薬学部の連携による連合合宿研修を実施した。独自の研究・教育活動を堅持しつつ、連携可能な課題での協働による先端研究の促進と次世代人材の養成を目的とするものである。

<熊本大学>

○ 学生団体”Amakusa Medical Students (AMS)”による研修会（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、地元の地域医療の現状を学ぶ研修会を学生自ら開催し、故郷における次世代の地域医療の担い手として自らできることを考える研修会を実施した。
- 学生による天草地域の医療課題解決プランコンテスト事業（A-1グランプリ）
- ・学部生及び大学院生を対象として、地天草地域が抱える医療課題に対する解決プランが学生達からアイディアを募集し、このコンペを実施した。将来、優秀なプランを実現され、

天草の地域医療が抱える問題解決を一助とする活動と位置付けられる。

○ 子宮頸がん検診受診率向上推進事業（K発プロジェクト）（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、子宮頸がん検診受診率向上推進事業(K発プロジェクト)を実施した。
- ・熊本大学医学部（医学科、保健学科）・同薬学部の教員・学生、同政策創造研究所教員・学生、熊本県健康づくり推進課職員、熊本市健康づくり推進課職員、KKT熊本県民テレビ職員が一体となって、子宮頸がんの検診受診率の向上に向けた産官学が一体となった活動である。この活動を通して、医学・薬学・行政・マスコミ・社会との繋がりを学ぶことおよび命の大切さを学んだ。
- ・実際の活動としては、定期的な全体会議、熊本県内で行われている各種がん検診イベントスタッフとしての参加、熊本大学学園祭（紫熊祭）での講義・映画鑑賞・子宮けいがん無料検診、日本学術振興会主催ひらめき・ときめきサイエンス(高校生を対象とした実験体験型イベント)などがある。この活動に参画している S.K.K.は昨年熊本市の「いきいき健康大使」に任命され、またこの活動の一部は熊本日日新聞に掲載された。

2) その他（大学としての取組等）

<東北大学>

○ 市民公開講座「今、ともに学び考える！」【連携】（*）

- ・熊本地震を経験した熊本大学と東日本大震災を経験した東北大学が連携して、医学・薬学を学ぶ大学院として震災と向き合い地域に寄り添うことを志向するための「市民公開講座」を開催した。
- ・東北大学「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」(略称：G-Safetyプログラム)は、地震などに関する研究や震災からの復興現場での活動などで多くの実績があり、熊本地震の発生直後から支援や調査、情報発信などを積極的に行ってきた。
- ・当日は「講演会」のほかに「講演を10倍楽しむためのプレ講座」と「親子でも参加できる展示・参加体験コーナー」も出展した。

<金沢大学>

○ 北信がんプロ【連携】（*）

- ・大学院生を対象として、文部科学省の大学間連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」の養成を図った。
- ・超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）は、2期の北陸がんプロ（金沢大、富山大、福井大、金沢医大、石川看護大）の実績を踏まえ、先駆的ゲノム医療を実施し、信州大を加えた国公立の6大学で県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指すものである。

<長崎大学>

○ 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・学部生を対象として、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎を実施した。
- ・薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指している事業である。
- ・2017年度は、長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の4つの科目を提供した。

○ 長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生を対象として、長崎薬学コンソーシアムを実施した。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図った。

<熊本大学>

○ 薬剤師サロン（*）

- ・熊本大学薬学部は、熊本及び全国の薬剤師の薬物療法に関する疑問に対して相談にお答えし、現役薬剤師の悩みを解決するサロンを実施した。2006年の開設以来、問い合わせ件数は2016年4月までで約600件で、相談内容は薬物適正使用、薬物動態、TDM実施方法などの問い合わせが多く、半数以上が県外からの質問であった。
- ・薬剤師を活性化し、リサーチマインドを持たせて共同研究を展開し、活発に学会発表・文献投稿する薬剤師を育てて行くためのサロンでもあるため、研究支援、論文作成支援も行っており、薬剤師サロンが協力して作成した主な原著論文は英語原著論文4本、日本語原著論文7本、総説は少なくとも10本以上ある

○ 薬剤師のための医療薬科学研修会（*）

- ・本研修会は、熊本大学薬学部以外の出身者、薬剤師としての実務者（企業関係者も含む）、薬学部出身ではない方にも参加可能な臨床薬学を学ぶものである。2013年の第26回までは平均入場者数が約100名だったが、2014年～2016年まで約200名の参加者に倍増した。

○ 熊本腎と薬剤研究会（*）

- ・2006年に結成された「腎臓病の薬物療法」に特化した研究会であり、年に4回、これまでに39回実施し、毎回80～200人が参加している。

○ 熊本TDM研究会（*）

- ・毎年1回開催される治療薬物モニタリングに特化した研究会であり、主に病院薬剤師が参加する。毎回50～100人が参加している。である。

○ 市民公開講座「今、ともに学び考える！」【連携】（*）

- ・熊本地震を経験した熊本大学と東日本大震災を経験した東北大学が連携して、医学・薬学を学ぶ大学院として震災と向き合い地域に寄り添うことを志向するための「市民公開講座」

を開催した。

- ・東北大学「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」(略称：G-Safetyプログラム)は、地震などに関する研究や震災からの復興現場での活動などで多くの実績があり、熊本地震の発生直後から支援や調査、情報発信などを積極的に行ってきた。
- ・当日は「講演会」のほかに「講演を10倍楽しむためのプレ講座」と「親子でも参加できる展示・参加体験コーナー」も出展した。

【2018年（平成30年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

○ 高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース

【連携】（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、日本の平均より15年先行して高齢化を迎えている北信地域において、在宅医療やゲノム医療による個別化したがん治療の演習や実習を実施した。
- ・一部、金沢大学と単位互換制度をとっている。

<金沢大学>

○ 薬物治療検討会

- ・学部生を対象として、薬物治療に関する薬学類学生の発表と金沢大学附属病院などの各専門分野の臨床医師による最新の薬物治療に関する講義を地域薬剤師に公開して、薬剤師と共に議論を行った。

○ 薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業の推進（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、本学薬用植物園や県内数カ所の薬草栽培試験地において、「薬草を通じた学生と地域市民との交流・教育・研究事業」を推進した。

<岐阜薬科大学>

○ 「地域で活躍する薬剤師」に関する地域実習

- ・学部生を対象として、つぼがわ薬局において地域実習を実施した。

○ 健康サポート薬局における研修

- ・学部生を対象として、かかりつけ薬剤師・薬局として在宅医療、地域住民の健康・福祉・医療に取り組んでいるフローラ薬局の見学、かかりつけ薬剤師業務の体験研修を実施した。

<名古屋市立大学>

○ 医療系学部連携沖縄アドバンスト地域医療実習

- ・学部生を対象として、本学オリジナルで行っている多職種協働での地域医療に貢献する高度医療人材養成プログラムの一環として、コミュニティ・ヘルスケア論の授業（選択 実

習)として位置づけ、1年次生からのプログラム受講者の最後の実習として1週間の沖縄でのアドバンストIPE地域医療実習を実施した。

- ・学生が現地の住民とコミュニケーションをとり独特の文化を理解するところから始まる本実習は、コミュニケーション能力、課題解決能力の醸成に有効と考えられる。
- ・本実習は、本学看護学部とも連携をとって行っており、IPEの一環として、若い教員の地域医療教育のFDとしても活用している。2018年度は、2回の実習を企画・実施した。
- ・本実習は、実習施設、宿泊施設の提供などを琉球大学医学部附属病院ならびに沖縄県北部地区薬剤師会の全面的な協力を得て実施した。

<京都大学>

○ 医療社会学

- ・改訂モデル・コアカリキュラム対応型地域医療教育プログラムの一環として、社会と医療の関わりを学び、薬局における症例を用いたPBLを展開する「医療社会学」を新設した。

<岡山大学>

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム講演会1 (*)

- ・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、「臨床試験の結果を読み解くポイントとピットフォール」と題した公開講演会を実施した。続々開発・発売される医薬品の臨床試験の結果を正しく見る能力を磨くことが新薬の有効性・安全性を適切に評価できることに繋がることから、新薬の効果の程度や特徴、単なる統計学的な有意差ではない臨床的な意義が判断できる薬剤師を養成するために本講演を実施し、討論を行った。

◇ 参加人数：学生、教員、薬剤師 合計約20名

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム講演会2 (*)

- ・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、「高齢者に対する日常診療の漢方治療」と題した公開講演会を実施した。高齢者は原因不明の不定愁訴が多く西洋薬では対応不可能な症状も少なくない。また複数の生薬の方剤である漢方は複数の異なる症状に著効を示す場合がありポリファーマシーや医療費抑制の観点からも極めて有用である。そこで、漢方診療が盛んな千葉県の漢方専門医を招いて数多くの漢方治療の症例の紹介を行った。

◇ 参加人数：学生、薬剤師、病院職員、教員 合計約60名

○ スペシャルライブトーク (*)

- ・学部生を対象として、「島医者が君に問います。生命といのちは違うの?」と題したインタラクティブ講義を実施した。低学年の学生に対する薬学を学ぶモチベーションを高めるための特別講義であり、この講義によって全員が夏休みに瀬戸内海の離島の医療の現状、島民の健康維持・治療上の悩み等を自主学修するフィールド体験への参加を希望したことから、効果が認められた。

◇ 参加人数：1年次生2名、2年次生2名、教員1名

○ 地域保健・医療現場におけるフィールド体験 (*)

- ・学部生を対象として、薬物治療に関する知識にまだ乏しい低学年が地域保健・医療現場における体験を通して、問題解決能力を高めることができる研修を実施した。医師1名が全島民の保健・治療の責任を担っている瀬戸内海の離島に単身で訪島し、医療過疎地における問題点を考える2日から4日のフィールド体験を行った。

◇ 参加人数：1年次生1名、2年次生2名

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム・岡山県薬剤師研修協議会講演会（*）

- ・学部生、大学院生、教員及び薬局薬剤師を対象として、「薬剤師による高齢者医療への関わり～ICFとCGAを踏まえた処方見直し手法～I」と題した公開講演会を実施した。岡山大学薬学部と岡山県薬剤師研修協議会、岡山県薬剤師会の主催で行った。岡山県薬剤師研修協議会は、岡山県病院薬剤師会、岡山県薬剤師会、岡山県女子薬剤師会、就実大学薬学部、岡山大学薬学部などから構成され、行政や流通関係者も参画する組織である。

◇ 参加人数：学生9名、教員5名、薬剤師56名

○ アドバンスト検体測定・生体モニタリング講習会

- ・学部生及び大学院生を対象として、昨年度主として保険薬局薬剤師向けに実施した「検体測定・簡易バイタル測定講習会」に非侵襲測定できる生体モニタリング測定を追加して発展形として実施した。
- ・次年度からは授業（臨床薬学演習2）として開講する予定である。

◇ 参加人数：学生6名

<徳島大学>

○ 徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク（TPN）

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、臨床で活躍中の医療関係者（医師・薬剤師・看護師等）を講師として招き、地域薬剤師との身近な勉強会並びに長期実務実習を行う市中の病院・薬局との情報交換の場として参加型研修会を年数回実施した。
- ・地域薬剤師への生涯学習の場として先進的薬剤業務の知識習得をサポートするだけでなく、学部学生にも自主的な参加を呼びかけ、徳島を拠点とした薬剤師・薬学生の交流の場として職能教育に役立つと期待される。また学生が地域薬剤師と共に学ぶことによって刺激を受け、就学意識の向上および生涯学習の重要性の認識につながることを期待される。

◇ 参加人数：学生82名、薬剤師20名

<長崎大学>

○ 17大学シンポジウム「アドバンスト教育研究プログラムのグローバルな展開」【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、2016年度から九州国立3大学（長崎大学、九州大学、熊本大学）が共同でシンポジウムを毎年1回開催している。本年度は熊本大学薬学部にて開催し、基調講演は広島大学の小澤教授にお願いした。国内外の研修プログラムに参加経験のある6名の学部生、大学院生にその取組内容を紹介してもらい、その後全体討論を行った。

<熊本大学>

○ 学生団体”Amakusa Medical Students (AMS)”による研修会

- ・学部生及び大学院生を対象として、地元の地域医療の現状を学ぶ研修会を学生自ら開催し、故郷における次世代の地域医療の担い手として自らできることを考える研修会を実施した。

2) その他（大学としての取組等）

<金沢大学>

○ 北信がんプロ【連携】（*）

- ・大学院生を対象として、文部科学省の大学間連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」の養成を図った。
- ・超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）は、2期の北陸がんプロ（金沢大、富山大、福井大、金沢医大、石川看護大）の実績を踏まえ、先駆的ゲノム医療を実施し、信州大を加えた国公立の6大学で県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指すものである。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナーの開催

- ・個人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生している。個々の薬局薬剤師が関与することによりこれを解決することを目指して、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を行った。

<長崎大学>

○ 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・学部生を対象として、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎を実施した。
- ・薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指している事業である。
- ・2018年度は、長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の4つの科目を提供した。

○ 長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生を対象として、長崎薬学コンソーシアムを実施した。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐

世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図った。

【2019年（平成31年／令和元年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

- 高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース【連携】(*)
 - ・学部生及び大学院生を対象として、日本の平均より15年先行して高齢化を迎えている北信地域において、在宅医療やゲノム医療による個別化したがん治療の演習や実習を実施した。
 - ・一部、金沢大学と単位互換制度をとっている。

<岐阜薬科大学>

- 「地域で活躍する薬剤師」に関する地域実習
 - ・学部生を対象として、つぼがわ薬局において地域実習を実施した。

<名古屋市立大学>

- コミュニティヘルスケア卒前教育プログラム
 - ・学部生を対象として、医療系学部（薬学部・医学部・看護学部）連携教育プログラムを実施した。

<岡山大学>

- 石巻地区被災地医療研修 (*)
 - ・学部生を対象として、災害時医療及び災害時における地域の医薬品供給体制や医療救護体制を学び薬剤師等の役割を理解することを目的として、石巻赤十字病院において東日本大震災の現状とその対応について確認・体験学習・討議を行った。
 - ・震災前と全く光景が変わった被災地の見学により津波の恐ろしさを体感できた。モバイルファーマシーの前身となった移動薬局の結成、医薬品の供給、在庫管理等に薬剤師が活躍できることや、地域における医療連携体制、多職種間における患者情報の共有について学ぶことができた。
- ◇ 参加人数：6年次生3名、3年次生1名、1年次生2名
- 川崎医大現代医学教育博物館見学及び倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流 (*)
 - ・学部生を対象として、人体及び疾病について広く深い学習の場の見学により医療人としての自覚を促すと共に本学薬学部学生の備えるべき教養と人間性を涵養することを目的として、川崎医大現代医学教育博物館の見学と、倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流を実施した。

- ・薬学部学生にとって医療人としての自覚を促す観点からも重要な機会となり、また医学薬学の世界と違う形での創造性に富む意欲的な作品に触れ刺激を受けることで、薬学部学生の備えるべき教養と人間性の涵養の機会となった。

◇ 参加人数：学部生8名、教員4名

○ 特別講演会（＊）

- ・学部生を対象として、特別講演会「行政機関における薬剤師及び薬学出身者の役割について学ぶ」を実施し、国や地方行政機関における薬剤師や薬学出身者の役割について学習した。
- ・本講演会では、厚生労働省及び岡山県庁で働く薬剤師の職員の方を招き、国や地方行政機関において薬剤師及び薬学出身者に期待される役割や担当業務について講演を行った。

◇ 参加人数：学生6名、教員1名

○ 国立療養所見学研修

- ・学部生及び大学院生を対象として、国立療養所見学研修を実施した。治療薬がなかったことで疾患への誤った医療知識が広まり差別を生み出したハンセン病の歴史を知り、医薬品に携わる者としての使命を自覚する機会として、岡山県内にある国立ハンセン病療養所長島愛生園を訪問した。

◇ 参加人数：学部生12名、大学院生1名

<徳島大学>

○ 徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク（TPN）

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、臨床で活躍中の医療関係者（医師・薬剤師・看護師等）を講師として招き、地域薬剤師との身近な勉強会並びに長期実務実習を行う市中の病院・薬局との情報交換の場として参加型研修会を年数回実施した。
- ・地域薬剤師への生涯学習の場として先進的薬剤業務の知識習得をサポートするだけでなく、学部学生にも自主的な参加を呼びかけ、徳島を拠点とした薬剤師・薬学生の交流の場として職能教育に役立つと期待される。また学生が地域薬剤師と共に学ぶことによって刺激を受け、就学意識の向上および生涯学習の重要性の認識につながることを期待される。
- ・2019年度は1回開催した。

◇ 参加人数：学生63名、薬剤師1名

<熊本大学>

○ 学生団体”Kumamoto Medical Students (KMS)”による研修会

- ・学部生及び大学院生を対象として、自らが開催した地元の地域医療の現状を学ぶ研修会において、地域における次世代の地域医療の担い手として考える機会の創出した。

2) その他（大学としての取組等）

<千葉大学>

- 実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム
 - ・平成24年度～28年度文科省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組として実施していたプログラムを継続して実施した。千葉県内3薬科大学が特徴的に有する教育プログラムを相互に受講できるプログラムである。

<金沢大学>

- 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成：北信がんプロ **【連携】**
 - ・大学院生を対象として、文部科学省の大学間連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」の養成を図った。
 - ・我が国におけるがん医療の推進を目的としており、国公私立の7大学（金沢大、富山大、福井大、信州大、金沢医大、石川看護大）で県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システムの構築を目指すものである。
 - ・薬学系では、大学院生・薬剤師を対象とした教育プログラムを実施した。

【2020年（令和2年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

- 高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース **【連携】**
 - ・学部生及び大学院生を対象として、日本の平均より15年先行して高齢化を迎えている北信地域において、在宅医療やゲノム医療による個別化したがん治療の演習や実習を実施した。
 - ・一部、金沢大学と単位互換制度をとっている。

<名古屋市立大学>

- コミュニティヘルスケア卒前教育プログラム
 - ・学部生を対象として、医療系学部（薬学部・医学部・看護学部）連携教育プログラムを実施した。

<九州大学>

- 九州地区国立大学法人3大学合同シンポジウム **【連携】**
 - ・学部生、大学院生及び社会人を対象として、地域医療に関する研修や先進的な地域医療インターンシップ等を開発・実施するために、九州地区の九州大学、熊本大学、長崎大学で合同シンポジウムを開催した。
 - ・各大学の地域医療における取り組みについて情報共有や討議を行い、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師の養成を図った。

<熊本大学>

○ 熊本県合志市研修

- ・大学院生を対象として、熊本県合志市にて展開している熊本大学、株式会社ルネサンス、日本ユニシス株式会社との産官学連携事業（合志市の地域住民の健康づくりと地域活性化のためのサービス提供）に関する研修を実施した。

2) その他（大学としての取組等）

<千葉大学>

○ 実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム

- ・平成24年度～28年度文科省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組として実施していたプログラムを継続して実施した。千葉県内3薬科大学が特徴的に有する教育プログラムを相互に受講できるプログラムである。

<金沢大学>

○ 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成：北信がんプロ **【連携】**

- ・大学院生を対象として、文部科学省の大学間連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」の養成を図った。
- ・我が国におけるがん医療の推進を目的としており、国公私立の7大学（金沢大、富山大、福井大、信州大、金沢医大、石川看護大）で県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システムの構築を目指すものである。
- ・薬学系では、大学院生・薬剤師を対象とした教育プログラムを実施した。

【2021年（令和3年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

○ 和漢医薬学入門

- ・学部生を対象として、日本で唯一の和漢医薬総合研究所を同じキャンパスに有する利点をいかし、東洋医学に基づく医療を実践するための知識や技能を修得する和漢医薬学入門を開講した。

○ 東洋医学概論

- ・学部生を対象として、附属病院で和漢診療科の担当医師から病態の認識方法や治療概念が大きく異なる東洋医学と西洋医学の調和を推進するための漢方医学の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用の注意事項などについて学ぶ東洋医学概論を開講した。

<名古屋市立大学>

○ コミュニティヘルスケア卒前教育プログラム

- ・学部生を対象として、医療系学部（薬学部・医学部・看護学部）連携教育プログラムを実施した。
- ・本プログラムは、本学多職種連携教育の一環として地域医療に貢献する医療人材育成を目的とした学部横断型の授業である。薬学部1年生から6年間で順番にプログラム授業を10単位修得するとプログラム修了証書が大学から発行される。

<九州大学>

○ 薬局実務実習における在宅医療実習

- ・学部生を対象として、薬局実務実習において在宅医療や終末期医療に関する実習を実施することにより、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師の養成を図った。

<熊本大学>

○ 感染症医療人材養成事業

- ・学部生を対象として、パンデミック下での大規模災害時に医療従事者が行うべき感染対策を討議・学習する3学科（医学部医学科、保健学科、薬学部薬学科）合同実習を実施した。シミュレーターを用いた薬学部生のワクチンの調製・投与（筋注）に関する実習を行った。

2) その他（大学としての取組等）

<千葉大学>

○ 実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム

- ・平成24年度～28年度文科省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組として実施していたプログラムを継続して実施した。千葉県内3薬科大学が特徴的に有する教育プログラムを相互に受講できるプログラムである。

<金沢大学>

○ 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成：北信がんプロ **【連携】**

- ・大学院生を対象として、文部科学省の大学間連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」の養成を図った。
- ・我が国におけるがん医療の推進を目的としており、国公私立の7大学（金沢大、富山大、福井大、信州大、金沢医大、石川看護大）で県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システムの構築を目指すものである。
- ・薬学系では、大学院生・薬剤師を対象とした教育プログラムを実施した。